勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア／総代理店 大松貿易株式会社

大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

「中学校大会」の問題点あろう

日本協会中等部・中体連ク代表合同会議

（北信越ブロック）

日本ハンドボール協会中学部・全国中体連ブロック代表合同会が8月23日17時より熊本市で開かれた。日本協会から12名、中体連から8名（協会・中体連同一代表を除く）が参加し、協議された。

協議事項

一、都道府県大会　予選について
静岡県のみ中体連、協会が共催し、他は中体連主催で大会を行なう。

二、ブロック大会開催について
近畿・四国ブロックは中体連主催で行ない、他はブロック協会・中体連の共催で行なうこととする
なお本年のブロック予選が8月10日以後に行なわれるため、開催地のプログラム印刷に困難が生じるので、ブロック予選の日程等に配慮を求める意見がなされた。

三、全国大会について
開催規準については同意がなされた。ただ大会役員の委認について、中体連会長・日本協会会長の連名押印が規定されているが、東京まで出向く必要があるなど困難を生じている旨の報告があった。

四、次期開催地
昭和56年度　山口県徳山市
（中国ブロック）
昭和57年度　富山県氷見市

五、その他
○…ブロック割、9ブロック16チームについて同意されたが、ブロックに対するチーム割当に問題があるので、ブロック割当チーム数を56年度から変更すべきであるとする意見に全委員が同意した。
○…ブロック大会がブロックにより違っているので、代表決定に困難が生じている。54年度までの確認事項で、全国大会出場は1府県1チームとしているので尊重してほしいとの要望があった。
この確認事項は、近畿ブロック大会が1府県2チーム16チームで大会を開催しているので、上位より出場すると1府県にかたまることがあるので作られた事項である

六、中体連から求められた、全国中学校競技大会に関するアンケートの解答について。

〔質1〕競技大会は、開閉会式を含め72時間以内に終了することについて。
〔解1〕種目により決定が必要。当競技としては、中学生の体力より考え、一日一試合96時が必要。
〔質2〕全国大会の参加は、ブロック大会を経て選抜することについて。
〔解2〕ブロック大会経由でよいが、ブロック大会の要項を統一することが大事。1府県1チームで代表決定すべき。
〔質3〕その他大会開催の基本的な考えがありましたら。
〔解3〕オリンピック選手の養成でなしに、普及指導が本来の目標後援の団体を規制する必要がある
〔質4〕出場チーム数は、種目の特殊性を認めるか。
〔解4〕種目の特殊性を認めるべき。全国中体連本部で規定すべきでない。全国協会・全国中体連の組織委員で決定すべき。
〔質5〕55年度大会の反省。
〔解5〕日本協会・開催地協会、中体連との連絡話し合いが必要。全国中体連が独走しないこと。
〔質6〕56年度大会の希望
〔解6〕協会・中体連合同委の決議事項（前記）を尊重し運営してほしい。
〔質7〕開催地のブロック持同り制について
〔解7〕普及指導の為にも持回り制に賛成
〔質8〕大会を総合体育大会とすることについて
〔解8〕反対。協会と全国中体連との話し合った確認事項では、実施しないはずだ。
〔質9〕全国大体対策委とブロック別種目代表との合同会議は今までに何回持ったか。
〔解9〕年2回
〔質10〕合同会議の種目は。
〔解10〕協会委員とブロック中体連代表との運営委員会。
〔質11〕合同会議の経費の出所は
〔解11〕日本ハンドボール協会より。
〔質12〕全国大会対策委員とブロック代表との連携に関する問題点
〔解12〕中体連だけでなく、協会委員との連携が必要。

> 紙面の都合により、質問文及び質問番号に多少の変更が加えられています。（編集委）

申し合せ事項

一、ブロック・16チームの内わけ

ブロック	男子	女子	合計
北海道	1	1	2
東北	1	1	2
関東	2	2	4
北信越	2	2	4
東海	2	2	4
近畿	2	2	4
中国	2	2	4
四国	1	1	2
九州	2	2	4
開催地	1	1	2
計	16	16	32

二、今後の大会について、総合体育大会とはしない。（あくまでハンドボール競技の中学大会。

『ハンドボール』

55年10月号（第190号）目次

【表紙写真】開幕した第5回日本リーグ。大阪イーグルスは本田技研鈴鹿を倒す銀星。シューターはイーグルス・辻本。【スポーツ・イベント提供】

全国中学校大会

拝島（東京）と小川（熊本）が優勝飾る

第9回全国中学校大会は8月21日から23日まで熊本市立体育館に全国の代表、男女各16校が参加して行われた。

大会毎に目ざましいレベルアップを示す中学界だが、今夏も期待にたがわぬ好内容の試合がつづき、男子は拝島（東京都昭島市立）が2年ぶり2度目、女子は小川（熊本県小川町立）が2年ぶり3度目〜第3回大会の「小川ク」を含む〜の優勝を飾った。

▼男子1回戦

下松（中国・山口）19（6－9、13－8）17 今尾（東海・岐阜）

生駒（近畿・奈良）21（8－3、13－6）9 信夫（東北・福島）

氷川（九州・熊本）26（11－6、15－7）13 釧路北（北海道）

茎崎（関東・茨城）14（6－6、8－2）8 大淀（近畿・大阪）

汐路（東海・愛知）27（11－5、16－5）10 紫雲（四国・香川）

松橋（開催地）17（5－4、12－6）10 十二月田（関東・埼玉）

秀森（九州・沖縄）29（16－3、13－9）12 四条（近畿・京都）

拝島（関東・東京）14（7－3、7－5）8 芦城（北信越・石川）

▽同準々決勝

生駒 20（7－7、13－8）15 下松

氷川 17（7－7、10－8）15 茎崎

汐路 14（8－3、6－8）11 松橋

拝島 19（13－5、6－9）14 神森

▽同準決勝

拝島 14（7－5、7－5）10 汐路

	【汐路】	得
GK	菅沼	0
GK	森川	0
FP	岩田	5
FP	中村	0
FP	平松	2
FP	久保田昌	2
FP	青地	0
FP	田中	1
FP	近藤	0
FP	久保田勝	0
FP	塩坂	0
FP	疋田	0

	【拝島】	得
GK	宇田川	0
GK	山本	0
FP	山口	0
FP	郡司	8
FP	目黒	2
FP	小山	0
FP	浜川	1
FP	佐々木	1
FP	金子	0
FP	津田	1
FP	真知田	1
FP	黒川	0

（審・森、井手）

14（4）PT（1）10

○…大型の両チーム、互いにロングシュートを打ち合い、全員よく走って好展開となった。とくにサイドシュートでは、両チームともアクロバチックな好フォームを披露、観客席を沸かせた。

拝島はGK宇田川の活躍で、前半を2点リード、左腕のゲッター目黒をマークされて苦しいながらもペースをつかんだ。

後半に入って汐路も全員速攻でよく頑張り、追い上げに必死となったが、要所でGKを攻略しきれず、涙をのんだ。

氷川 13（5－4、8－6）10 生駒

	【生駒】	得
GK	井内	0
GK	大木	0
FP	日向	2
FP	納	1
FP	入江	1
FP	大原	1
FP	上野	3
FP	吉川	0
FP	坂口	2
FP	本山	0
FP	浜野	0
FP	政田	0

	【氷川】	得
GK	黒木	0
GK	鉄島	0
FP	片山	0
FP	光永	7
FP	黒田	3
FP	財満	2
FP	坂田	0
FP	上田	0
FP	村上	1
FP	藤岡	0
FP	西河	0
FP	中村	0

（審・平井、福田）

13（1）PT（3）10

○…スタート直後、氷川の三点連取が出て氷川ペースの滑り出しだったが、このメンバーを組んで長い生駒は落ちつきを取り戻し、守りを固めて追撃体勢。速攻とポストプレーで17分に4－4と同点に追いつく。

氷川は黒木の気迫のあふれたキーピングでしのぐ一方、前半終了間ぎわ光永がねじこんで一点リードで前半を何とかモノにした。

後半に入っても一進一退の攻防が続き、生駒はGK・井内が再三好キープを見せて試合を引きしめ打っても上野の好打で後半10分までピッタリと氷川についていった。

ところが、ここから氷川のエース光永のシャープなロングが当たりを見せ、じつに五点を続けてもぎとる活躍で一気に生駒をつき放すラッキーボーイぶり。

生駒は「あと一点」が足りずリードを奪えないまま惜しくも敗れ去った。

▽同決勝

拝島 18（6－8、12－5）13 氷川

	【氷川】	得
GK	黒木	0
GK	鉄島	0
FP	片山	3
FP	光永	2
FP	黒田	4
FP	財満	1
FP	坂田	0
FP	上田	0
FP	村上	3
FP	藤岡	0
FP	西河	0
FP	中村	0

	【拝島】	得
GK	宇田川	0
GK	山本	0
FP	山口	5
FP	郡司	6
FP	目黒	5
FP	小山	0
FP	浜川	0
FP	佐々木	2
FP	金子	0
FP	津田	0
FP	真知田	0
FP	黒川	0

（審・福田、平井）

18（2）PT（0）13

○…立ち上がり、速い動きから氷川が片山のロングで先取点を上げ、地元ギャラリーの大歓声が響きわたって好ゲームがスタートした。

氷川はポスト、サイド、ステップからのミドルや、理ヅメのフリースロー攻撃で一歩リード、拝島は宇田川の好守を軸に、左腕・目黒のカットイン、郡司のロングで追っかける。

後半に入って氷川は拝島・目黒を攻撃の柱と見てマンツ作戦、ところが、ここで、拝島は佐々木らががんばって氷川ディフェンスをかきまわす。氷川は、すかさず目黒へのマンツーを解いたが、ここで流れが変わった。

後半12分まで13－10とリードしていた氷川だったが、優勝経験のある拝島が追い上げの足音を響かせ始めると、固い動きになってしまった。13分から16分までの3分間は、氷川にとって、まさに〝魔の3分間〟。拝島がこの3分間になんと五連続ゴールを奪ってしまうのだ。

拝島で普段なら活躍するはずの山口はこの大会不調だったが、この土壇場に来て、ウップンをはらすような大活躍、郡司とともに、たたみかけるような速攻を見せて同点打、逆転打をたたき出してしまう。それにしても、流れが変わったあとの拝島のカサにかかった攻撃は中学生とは思えぬほどの迫力があり、みごととしかいいようがなかった。

寺井、惜しくも敗れる

▼女子1回戦

栄（関東・埼玉）11（7－1、4－9）10 鶴城（九州・熊本）

彦根西（近畿・滋賀）21（8－1、13－0）1 釧路北（北海道）

寺井（北信越・石川）24（11－1、13－2）3 塩山（関東・山梨）

春日井中（東海・愛知）18（9－1、9－9）10 大久保（近畿・兵庫）

小川（開催地）14（8－3、6－2）5 南犬飼（関東・栃木）

加納（東海・岐阜）8（5－3、3－1）4 郡山一（東北・福島）

伊奈（関東・茨城）18（9－2、9－2）4 香東（四国・香川）

住吉（中国・山口）15（3－3、12－1）4 光陽（近畿・大阪）

▽同準々決勝

寺井 12（7－4、5－2）6 春日井中

小川 13（8－3、5－4）7 加納

彦根西 14（3－5、10－8…0－1、1－0）14 栄

PTC1－0で彦根西の勝ち

住吉 8（5－2、3－3）5 伊奈

▽同準決勝

寺井 18（10－3、8－4）7 彦根西

【彦根】		得
GK	田島	0
GK	青木	0
FP	久保田	1
FP	谷口	2
FP	堀部	1
FP	豊田	2
FP	阿辻	1
FP	山田	0
FP	中村	0
FP	西村	0
FP	中西	0
FP	島田	0

【寺井】		得
GK	松本	0
GK	松原	0
FP	山本	0
FP	田中	2
FP	森	1
FP	荒木	6
FP	南	4
FP	多賀	2
FP	谷口	0
FP	芳賀	0
FP	米田	3
FP	丹後	0

（審・島田、松木）

7（7）PT（6）18

○…寺井中は荒木のロングを中心に一方的に攻めた。速攻、セットともに一日の長を見せる寺井に対して、ここまで接戦に次ぐ接戦を勝ちぬいてきた彦根は、スタミナ面でも、大きなハンデを背負っていた。それだけに立ち直りのチャンスを見出せないまま、前半3－10をとリードされてしまう。

後半も、久保田、谷口、堀部らのフリースロー攻撃で、何とか突破口を開こうとする彦根を、寺井はジックリと守っては速攻につなげ、後半分には15－3として、試合を決定づけた。

小川 7（3－2、4－2）4 住吉

【住吉】		得
GK	中嶋	0
GK	金田	0
FP	青木	0
FP	山本	0
FP	仲	3
FP	川口	0
FP	川峯	1
FP	右田	0
FP	金岡	0
FP	林田	0
FP	藤井	0
FP	和山	0

【小川】		得
GK	那須	0
GK	松崎	0
FP	平岡	1
FP	中野	0
FP	滝上	0
FP	西村	0
FP	平岡	4
FP	佐伯	1
FP	中村	0
FP	寺本	1
FP	豊岡	0
FP	田口	0

（審・税所、佐藤）

4（4）PT（2）7

○…地元テレビの実況放送でテレビ用ライトのこうこうとした灯の中で始まった試合は両チームの選手の固さにつながってしまう。

立ち上がりから両者とも動きが固く、ミスの多い前半となった。お互いにミスを拾い合って前半は3－2と小川が取った。

ハーフタイムで、やっと落ちつきの出てきた両者の後半、まず住吉の仲がゲット、同点に追いつきラリーの応酬となった。

6分に小川のエース・西村がロング、9分には仲が返して、またもや4－4のタイスコア。15分まで一進一退のあと、小川は残り4分から、西村がロング、さらにフォーメーションで誘ったPTを西村が決めてスパート、終了まぎわには中村がダメ押し点を決めて辛勝した。住吉にとっては最後の5分の守りの乱れが惜しまれよう。

▽同決勝

小川 8（4－5、4－2）7 寺井

【寺井】		得
GK	松本	0
GK	松原	0
FP	山本	0
FP	田中	2
FP	森	0
FP	荒木	1
FP	南	2
FP	多賀	2
FP	谷口	0
FP	芳賀	0
FP	米田	0
FP	丹後	0

【小川】		得
GK	那須	0
GK	松崎	0
FP	平岡	2
FP	中野	1
FP	滝上	0
FP	西村	2
FP	平岡	2
FP	佐伯	0
FP	中村	1
FP	寺本	0
FP	豊岡	0
FP	田口	0

7（1）PT（0）8

○…寺井は惜しい〝勝ち〟を逃がした。前半、いいペースで試合を進めていた寺井のGK、松本がハーフタイム間ぎわ、左足首をねんざ。後半もテーピングをして頑張ったものの、ディフェンスに精神的負担がかかり「守らねば」の意識が警告や、退場を呼んでリズムを崩すことになってしまった。

立ち上がり、寺井中は田中のワンドリブルフェイント、南の左サイドからのシュートで3－0と一気にリード。

小川もよく頑張り、セットからのフォーメーションプレーで追い上げる。さらに寺井のエース・荒木に〝お家芸〟の密着マーク、寺井のペースを崩そうとする。それでも寺井は荒木のPT、南の巧プレーなどで主導権を渡さず、5－4のリードで前半を取った。

流れが変わったのは後半のスタートだった。テーピングに手間どる松本に代わってゴールを守る長身GKは寺井の松原。ここで小川が得たPTを、松原はよく前へ出てバーに出てさせ、好キープかと思わせたが、このリバウンドが小川・西村の真正面にはねかえり、5－5の同点。この寺井にとっての〝不運〟が大きくリズムを変え小川のペースへと試合が流れた。

この直後、小川は平岡（恵）が打ちこんで逆転、さらに平岡（恵）は7分にもサイドから決めて小川を波に乗せる、13分には小川は西村で8－5。

テーピングをして頑張る松本の気迫に押されるように、それまで沈黙していた寺井は、14分に多賀が後半の初得点。17分にも多賀で一点差に追いつき小川8－7で残り時間3分。この間お互いに焦りが出てシュートをはずしたり、ラインクロスになったりで、結局、小川8－7のまま、タイムアップへとなだれこんだ。

熊本代表は、女子で7年連続優勝の偉業である。

イーグルス、本田技研を破る

女子 ビクター、大崎電気と引き分け

日本リーグ

第5回日本リーグが9月21日旭川で熱戦の火ぶたを切った。

栃木国体とのからみで、9月の日程は、新装の各チームが1試合づつを行ういわば〝顔みせシリーズ〟だったが、早くも男子では前年3位の本田技研鈴鹿が大阪イーグルスに完敗、女子でも優勝候補日本ビクターがヨーロッパ帰りの大崎電気と引き分けるなど波乱ぶくみのスタートとなった。また、前年3位のブラザー工業は立石電機に逆転負けをきっした。

10月の日本リーグは26日佐久、京都、徳山での試合だけ、ペナント争いの佳境は11月ということになる。

なお、2部も9月28日彦根で幕をあけた。

◇第1週第1日（9月21日・旭川市総合体育館）

▽男子

大同特殊鋼 33（18－4、15－8）12 三陽商会

得	【大同】		【三陽】	得
0	柳川兄	GK	吉近	0
0	山本	GK	田村	0
8	蒲生	FP	関	3
7	大原	FP	金子	2
0	中本	FP	坪子	0
5	中井	FP	大熊	4
2	花輪	FP	鵜沢	2
6	柳川弟	FP	山口	1
0	史谷	FP	稲木	0
4	小野	FP	石原	0
1	松原	FP	尾形	0
0	桐山	FP	斉藤	0
33（1）		PT		（0）12

（審・由利、森）

○…欧州転戦で〝国際チーム〟の自信を高めた大同は、中井の連続ゴールなどで10分6－0とリード、危気なく緒戦を飾った。三陽は強引なプレーが多く、20分までに14シュート1点では勝てない。

▽女子

日本ビクター 15（6－9、9－6）15 大崎電気

得	【日ビ】		【大崎】	得
0	渡辺	GK	藤村	0
		GK	梅野	0
3	加藤	FP	西	4
6	小島	FP	陽田	3
1	染谷	FP	石井	2
0	岩城	FP	渡部	1
1	伊藤	FP	江島	4
0	村上	FP	根間	0
3	志村	FP	徳渕	0
0	市根	FP	宮嶋	1
1	池田二	FP	嘉本	0
		FP	西嶋	0
15（4）		PT		（3）15

（審・今野、山中）

ルーマニア・ユーゴで強化に励んだ大崎はチーム全般にたくましさが感じられ、前半20分6－6から連続ゴール、優位に立った。

しかしビクターも後半、相手の気負いにつけこみ、加藤の活躍で5分あっさり同点(9－9)。そのあと一進一退から、23分池田監督のゴールで15－14、逃げ切るかにみえたが、大崎は終了寸前、西が貴重な1点をあげ、引き分けに持ちこんだ。

◇第2週第1日（27日・石川県体育館）

▽男子

大阪イーグルス 24（10－9、14－8）17 本田技研鈴鹿

得	【大阪】		【本田】	得
0	本田	GK	柴田	0
0	信貴	GK	大畑	0
2	高橋	FP	田上	2
1	足羽	FP	佐藤	6
3	大西	FP	喜井	1
2	河原崎	FP	豊岡	1
3	福井	FP	佐々木	4
8	辻本	FP	矢野	2
1	杉尾	FP	西田	0
4	三谷	FP	高橋	0
0	勝本	FP	谷元	0
0	飯山	FP	坂本	1
24（1）		PT		（6）17

（審・徳前、山口）

○…後半3分11－10から大阪は辻本の連続ゴールなどで引き放し相手の攻撃をGK本田が手固く捌く一方、着実に加点、20分21－11と大勢を決めた。

立石、鮮やかな逆転

▽女子

立石電機 14（5－8、9－5）13 ブラザー工業

得	【立石】		【ブ工】	得
0	井村	GK	屋比久	0
0	荒木	GK	中村	0
1	姫野	FP	杏原	1
4	桑原	FP	竹内	5
4	木下	FP	則武	1
0	紀野	FP	増永	3
3	薮田	FP	小平	0
1	羽立	FP	植田	2
0	喜久山	FP	山村	1
0	亀園	FP	尾崎	0
0	是枝	FP	松下	0
1	近藤	FP	後藤	0
14（2）		PT		（1）13

（審・村井、若山）

○…後半18分10－13とリードされていた立石は19分桑原のゴールで元気をとり戻し22分同点、24分薮田の劇的な逆転ゴールで勝利をもぎとった。ブラザーは後半10分以降8本のシュート失敗が痛い。好試合。

▽女子

日立栃木 12（6－5、6－5）10 北国銀行

得	【日立】		【北国】	得
0	寺沢	GK	酒倉	0
0	斉藤	GK	辻	0
1	吉田	FP	中山	0
3	島田	FP	本田	0
5	大輪	FP	千歩	3
2	水上	FP	木内	0
1	手打	FP	八木	6
0	毛塚	FP	西出	1
0	山戸	FP	大西	0
0	箕輪	FP	木戸	0
0	小根沢	FP	川本	0
12（4）		PT		（2）10

（審・竹野、越田）

○…残り10分9－11は北国にとって、まだ充分勝機は残っていたがPTの失敗などあって追いこめず日立は21分手打のゴールで12－9メドをつけた。

◇第2週第2日（28日・彦根市民体育センター）

▽男子

湧永薬品 20（11－6、9－9）15 日新製鋼

得	【湧永】		【日新】	得
0	大城	GK	三田	0
0	福井	GK	西川	0
4	津川	FP	泉	0
0	穂積	FP	徳田	2
1	戸田	FP	大嵩	3
4	松本	FP	吹上	2
7	山本	FP	脇若	1
2	池ノ上	FP	吉見	5
0	藤本	FP	洞ケ瀬	1
1	志賀	FP	森	0
1	生駒	FP	日野	0
0	内田	FP	甲斐	1
20（5）		PT		（5）15

（審・光島、幸山）

○…湧永が本調子ではなかったにせよ、日新のパワーアップが注目された。特に後半8分9－14から一気に同点とした反発力はみごと。湧永は苦しくなったあとGK福井が締め、山本の巧技などあって辛くも振り切った。

▽女子

ジャスコ 25（13－3、12－6）9 東京重機

得	【ジャ】		【重機】	得
0	山本一	GK	佐久間	0
0	矢部	GK		
4	松下	FP	寺西	1
1	林	FP	古谷	0
6	山本二	FP	川本	5
3	横山	FP	斉藤	0
3	松岡	FP	沖山	2
4	辻本	FP	鈴木久	0
1	平田	FP	森田	0
0	宮崎	FP	大前	0
3	若山	FP	宮田	1
0	直村	FP	鈴木喬	0
25（2）		PT		（1）9

（審・望月、北岡）

○…3年ぶり1部登場の重機に注目が集ったが、1分川本で先行したあと、なかなか追加点がとれず、ジャスコに主導権を握られてしまった。

◇2部第1日（28日・彦根）

▽女子

ムネカタ 20（7－6、13－7）13 和歌山県商工信用組合

大同特殊鋼訪欧終える

フランス国際優勝

ベルギー大会でも2位

日本リーグの男子チャンピオンチーム・大同特殊鋼（愛知）の藤井浩一団長、中浜大輔総監督ら役員3、選手15人は9月4日から16日までベルギー、フランスでの国際トーナメント出場のため初のヨーロッパ遠征を行なった。

大同は現全日本選手4、元全日本選手4名をもつだけに、ハードスケジュールにもかかわらず、持ち前のチーム力をいかんなく発揮、ベルギーでのリエージュ国際では二位、フランスでのナンシー国際ではみごとに優勝を飾った。

日本の単独チームが外国での国際トーナメントで優勝を遂げたのは史上初めてのことである。

このほか、大同は4カ国の転戦でも連勝をつづけ通算成績は11勝1敗。「ダイドウ・ナゴヤ」の名を、ヨーロッパの専門家、ファンの間に刻みつけた。

なお、ナンシー国際で蒲生が優秀選手と得点王の栄誉に輝いた。

蒲生が優秀選手に

◆試合記録

▽リエージュ国際トーナメント（9月6、7日・リエージュ＝ベルギー）

大同特殊鋼 32（17－7、15－5）12 ASCO（フランス）

大同特殊鋼 22（10－9、12－9）18 V・L・ゲリーン（オランダ）

大同特殊鋼 21（11－8、10－6）14 U・ベイノワース（ベルギー）

K・S・リュブリアナ（ユーゴ） 21（12－7、9－9）16 大同特殊鋼

【順位】①K・S・リュブリアナ②大同特殊鋼③U・ベイノワース④V・L・ゲリーン⑤ASCO・フランス

▽親善試合（9月9日・オランダ）

大同特殊鋼 26（13－9、13－8）17 B・W・N・ビーク（オランダ）

▽同（10日・西ドイツ）

大同特殊鋼 32（16－9、16－12）21 S・R・アーヘン（西ドイツ）

▽同（11日・ルクセンブルグ）

大同特殊鋼 18（14－5、4－10）15 HB・デュデリンゲン（ルクセンブルグ）

▽同（12日・フランス）

大同特殊鋼 34（17－9、17－11）20 ASPTT・ミュルーズ（フランス）

▽ナンシー国際（9月13日・ナンシー＝フランス）

大同特殊鋼 23（13－4、10－9）13 EC・S・メス（フランス）

大同特殊鋼 26（14－5、12－3）8 U・ベイノワース（ベルギー）

大同特殊鋼 26（12－10、14－6）16 CSL・ディジョン（フランス）

大同特殊鋼 18（9－6、9－7）13 ASPTT・メス（フランス）

【順位】①大同特殊鋼②ASPTT・メス③EC・S・メス④CSL・ディジョン⑤U・ベイノワース

大同特殊鋼 野田清監督に聞く

――7日間で12試合とは考えられぬ強行日程だが

野田監督 リエージュ、ナンシーの大会は、ヨーロッパで流行の20分ハーフ・マッチだった。ベルギー協会が、我々を日本チャンピオンとして遇してくれ、近隣各国のチャンピオンチームとの転戦をアレンジしてくれたことも試合数が増えた理由だ。

ナンシーの大会も急きょ、参加が決まった。

――11勝1敗というのは、それにしても素晴しいが。

野田監督 勝てたからいうのではないが、力一本の単独クラブ相手なら総合力では、ウチのほうが上だ。

むしろ、リュブリアナ（ユーゴチャンピオン）に敗れた一戦が悔いに残る。

出発前から、このチームに勝つのを目標にし、事実、今回対戦した相手のなかで、もっとも秀れたチームだった。その試合で、拙いプレーが出てしまった。

――「ダイドウ」への関心はどうだったか。

野田監督 東西ドイツやユーゴナショナルと単独で対戦、接戦していたといったら、びっくりしていた。どこでもスピードのある攻防が評価された。

――二つの国際大会の雰囲気はどんなものか。

野田監督 リエージュは、親善・友好に主眼がおかれており、ヨーロッパの有力チームはたえずこうして交歓していることがよくわかった。

内容的には、予定されたポーランドチームが来ていれば、さらに白熱しただろう。

ナンシーは、国内三強大会に我々が飛入りしたようなもので、メス両クラブの対戦など、フランス同士のカードは、かなりエキサイトしていた。

半日をかけて10試合全部を消化してしまうわけだが、満員に近い一千をこすファンが、ほとんど動かないのには驚いた。

――各国の情勢で気がついたことは。

野田監督 ベルギー協会手配のバスで転戦々々という日程のためゆっくり取材はできなかったが、単独クラブは、大型のアタッカー二～三枚を軸にしたチーム造りが共通している。

ユーゴは、若手に好素質の選手が多いようだし、フランスのクラブには、ルーマニアからかなり選手が流れこんでいる。

パワー主体のなかで、西ドイツのアーヘンは下部リーグながら、力と技を使い分け、さすが西ドイツのクラブだ、と印象に残った。

――大同としての収獲は

野田監督 前半で点差のついた試合では、若手中心の編成を試みた。浦田、田中らが自信をつけたと思う。四冠独占へのはずみになれば嬉しい。（了）

大崎電気女子元気に帰国

ルーマニア、ユーゴで約1カ月の強化つむ

女子実業団球界の名門・大崎電気(埼玉)の家村一敏団長、谷口俊郎監督ら役員3、選手13人はチーム力強化を目的に、8月17日から9月11日までルーマニアに遠征、同国トップチームとの対戦をはさみながら、トレーニングをつんだ。

本格的シーズンを間近に控えたルーマニアは、各クラブともナショナルプレイヤーを中心に、調整期とあって、大崎の来訪は各地で歓迎され、バカウ、ブラソフ両市でのトーナメントに参加できたほか、練習、親善試合がつづき、期待以上の成果がおさめられ、ブラソフ大会では、西が最多得点選手となった。

ルーマニアのあとユーゴに転戦同地でもトップチームとの試合が組まれ、東欧勢の力と高さになれた大崎は、勝利をもぎとる〝成長〟を示した。日本の女子チームのヨーロッパ単独遠征は史上初。

ユーゴで1勝を飾る

◆試合記録

▽親善試合(8月21日・ルーマニア)

ブフシ紡織(ルーマニア) 27(14－6 13－7)13 大崎電気

▽バカウ・トーナメント(8月22〜24日・バカウ＝ルーマニア)

ブラソフ・ルルメンタル 24(12－13 12－5)18 大崎電気

コンストラクトル・テイミソアラ 25(13－9 12－9)18 大崎電気

テイミソアラ大学 28(14－5 14－12)17 大崎電気

ブフシ紡織 23(12－11 11－8)19 大崎電気

ステインタ・バカウ 32(16－7 16－7)14 大崎電気

【順位】①テイミソアラ大学②ステインタ・バカウ③ブラソフ・ルルメンタル④ブフシ紡織⑤コンストラクトル・テイミソアラ⑥大崎電気(各チームともルーマニア)

▽ブラソフ「エリベラリ杯」トーナメント(8月29〜31日・ブラソフ＝ルーマニア)

M・T・G・ムレス 17(7－9 10－6)15 大崎電気

テロム・イヤシ 23(11－9 12－7)16 大崎電気

ブラソフ・ルルメンタル 17(8－6 9－10)16 大崎電気

【順位】①ブラソフ・ルルメンタル②テロム・イヤシ③M・T・G・ムレス④大崎電気(各チームともルーマニア)

▽親善試合(9月3日・ルーマニア)

プログレスル・ブカレスト(ルーマニア) 19(10－7 9－7)14 大崎電気

▽親善試合・ユーゴ3戦(9月5日〜10日、パンチョフ＝ユーゴ)

大崎電気 24(14－11 10－10)21 キキンド「10・6」HC

ディナモ・パンチョフ 20(10－7 10－10)17 大崎電気

デイン・ニス 20(11－10 9－9)19 大崎電気

(注)このほか、ルーマニアで練習試合(非公式戦)2回を実施。

大崎電気 谷口俊郎監督に聞く

――まず収穫から聞きたいが

谷口監督 初めのうちこそ、すべてに気押されしたが、なれるにしたがい、自分たちでも、世界のトップクラスに通用するプレーがあることがわかった点だ。

それが、今後、チーム全体のまとまりとたくましさにつながってくれれば、遠征の目的は、充分果たせたことになる。

また、ルーマニアの各チームの練習と自分たちのそれが、ほとんど同じ内容であることを知ったのは大きかった。

体格差はともかく、トレーニングの方法(内容)に相違がないということが、これほど、チームの〝自信〟につながるとは、実は思わなかった。

――ルーマニア、ユーゴの選手と日本の選手の最大の相異点は

谷口監督 いまさら体格差をいってもしょうがないが、今回感じたのは脚力だ。実によく走る。

また、彼女たちは、ディフェンスにどうつかまっても、利き腕を活かす態勢をキープしている。

それだから、強引なプレーにも対抗できる。

こうしたチームを相手にしていたので、自然、大崎もディフェンスが強くなった。

――大崎への関心はどうだったか

谷口監督 東洋から来たチームが、どんなハンドボールをするか興味をもって迎えられたようだ。

試合にしろ練習にしろ、ルーマニアでは、すべて1部リーグの強力クラブが相手をしてくれたことは感激だった。

――ルーマニア女子はひところの精彩がないといわれるが

谷口監督 低迷の原因は、コーチングスタッフのひんぱんな交替にあるようだ。

選手の素質はすばらしいものがあり、どのクラブも180センチ台の若手を三〜四人持っている。

ルーマニアにしてもユーゴにしても、早くもロスアンゼルス・オリンピックまでの綿密なスケジュールが組み上げられており、備えは充分の印象をもった。

――ヨーロッパ女子界の新しい動きを耳にされたか。

谷口監督 ルーマニアの関係者は、女子も30分ハーフになるのは時間の問題ということで、今秋の全国リーグから、30分ハーフ採用に踏み切るといっていた。

攻撃制限時間については「45秒ルール」よりも「30秒ルール」になる可能性があるようだ。時期的に、いつ頃になるかは、はっきりしなかった。

また、ルーマニア、ユーゴとも中国女子との交流を積極的に推進するようだ。(了)

大崎電気遠征総得点

西	90
石井	65
陽田	26
穂渕	12
渡部	11
江嶋	10
宮嶋	9
嘉本	4
根間	2
西嶋	1
宮本	0
藤村	K
梅野	K

ワン氏（IHF規則審判委員長）招き講習会
12月東京での開催を検討

日本協会は9月13日東京での常務理事会で、今冬12月、IHF（国際ハンドボール連盟）の規則・審判委員長カール・ワン氏（ノルウェー）を日本に招き、特別講演会とレフェリー・コースを行うよう準備することを決めた。

これは、荒川理事長が、7月モスクワでのIHF総会時、ワン氏に招待の意向を伝え、内諾を得ていたもの。日本協会は、この事業を日本国内に留めず、出来れば全アジアに呼びかけて、国際的な規模のものにすることを検討中である。

現在の予定では12月16日～20日の第32回全日本総合選手権（東京体育館）時にワン氏を招き審判講習をうけ、21日東京渋谷の岸記念体育館地下大講堂で特別講演会を行なうことにしており、ワン氏と日程の交渉に入った。

ワン氏の承諾が得られれば、荒川理事長は、AHF（アジアハンドボール連盟）理事の立ち場で、各国に案内状を送り、各国関係者の参加を要請する。

この企画が実現されれば、日本協会として、IHFの実力者を招いて初の本格的講習会、講演会となる。

〃〃〃〃〃〃〃〃〃 90年の広島アジア大会 ハンドボールの実施も提案

JOC（日本オリンピック委員会）は、9月24日東京での総会で広島市から一九九〇年（昭65）のアジア大会立候補の届出があったことを報告、招致準備を推進することに賛同した。

広島市の用意した文書によれば同大会ではハンドボールの実施も提案されている。

「台湾除名」は誤解釈
渡辺理事、本誌報道を「訂正」

渡辺和美・IHF（国際ハンドボール連盟）理事は、本誌188号2頁所報のIHF総会記事中「台湾問題」について、本誌編集委員会あて、次のような「説明」を伝えてきた。

◇

IHF総会は、中国の正式加盟を承認したと同時に、台湾を「中国タイペイ・ハンドボール協会」の名称で、これまでどおりIHFメンバーとして資格を与えている

機関誌188号によれば、IHF総会に日本代表として出席した荒川理事長が「事実上、（台湾が）除名となった」としているが、これは誤りである。

総会に出席していた台湾代表はたしかに「中国タイペイ・ハンドボール協会」という名称変更については強く反対したが、これを不満としてIHFから脱退するような姿勢は示さなかった。

総会が圧倒的多数で決めたのは「中国加盟にともない、台湾は中国タイペイ・ハンドボール協会としてメンバーに残す」ことであった。

したがって、荒川理事長の述べる「除名」は、適当ではない。

世界男子 日本を含め予選

渡辺IHF理事は、本誌187号が情報として伝えた「第10回世界男子選手権（82年2月・西ドイツ）に、日本はすでにアジア大陸第1代表として確定している」というニュースを否定した。

同理事によれば、前回の世界男子選手権（デンマーク）で、日本が12位になったことで、第10回大会のアジア大陸代表が2カ国になっていることは確実だが、そのうちの一つが日本であるとは、IHFはいちども決めていないという。

なお、同理事はアジア予選は、来年中に行われる予定で、参加申し込み国の総当り戦を行ない、上位2カ国に世界選手権代表が与えられると語った。

また、来年に予定される第3回アジア男子選手権（イラク）が、世界選手権予選を兼ねることは、まず考えられないとも付加えた。

宋丙堂氏亡くなる

早大OBで、戦前の日本ハンドボール界の代表的選手の一人だった元・台湾協会理事長、宋丙堂氏が8月16日台湾ですい臓ガンのため亡くなられた。

宋氏は、第2次大戦後は台湾ハンドボール界の育成につとめ、みごとにその基盤をつくりあげた。

日本など13カ国参加か
第8回世界学生選手権

本誌が得た情報によると今冬12月28日からフランスで開かれる第8回世界学生選手権（男子のみ）の参加国は、日本を含め13カ国の模様である。

すでに申しこみを終えているのは日本のほかブルガリア、西ドイツ、コート・ジボアール、フランス、イスラエル、ユーゴ、コンゴ、ポーランド、スペイン、ハンガリー、アメリカ、ソ連で、前回優勝のルーマニアの名がない。

予選リーグの組み分けは10月中旬の予定で、日本代表チームのメンバーは、全日本学連によって選考が進められている。

水野財団から寄付金

財団法人・水野国際スポーツ交流財団は9月19日、日本選手団のモスクワ・オリンピック不参加による代替事業に対する寄付金として十三の競技団体に総額九百五十万円を贈ったと発表した。このうち日本ハンドボール協会には五十万円が寄贈される。

「45秒ルール採用」は誤報か

本誌188号2頁で伝えたタス通信（ソ連）による「45秒ルールが来年8月1日から採用される」という報道は、当のIHF総会に出席した日本協会・荒川理事長や渡辺IHF理事の否定で、？のついたままだったが、このほどヨーロッパ遠征から帰国した大同特殊鋼・野田清監督、大崎電気女子・谷口俊郎監督とも「そのような話はベルギー（大同）ルーマニア、ユーゴ（大崎）でも聞かなかった」といっている。

これで、タス電は、誤りであることが色濃くなった。

なお、日本協会は、本誌〆切り（9月28日）までに、IHFへ問い合せた結果についての発表は行っていない。

日本協会専門委員会だより

審判

第4回（昭和55年度）JHAレフリーコースの前、後期を終った。

本コースが開設された趣旨は、若く優秀な審判技術をもつレフェリリーを養成する目的で実施され、第1回14名、第2回13名、第3回18名、そして今回14名の合計49名の合格者を生んだ。これらの人たちは大会などにも活躍中である。すでにA級を取得して研讃を積み国際審判員を目指して努力中である。

又後期の日程は、8月26～28日の三日間、つぎの通り実施され終了した。

▽26日「競技の運営について」「審判員規定」「スポーツにおけるレフェリーのありかた」▽27日「体力・実技研修」▽28日「レフェリーの姿勢と目標」「英語テスト問題質疑」「ペーパーテスト」

前後期の全コースを通して受講された者は37名である。講義および実技。ペーパーテスト、体力テスト、実技テストを行なって今回の合格は次の通りである。

杉山勝次（静岡）
若田善範（静岡）
柴田秀治（奈良）
奥田政俊（奈良）
丸谷謙二（奈良）
秋山幸生（三重）
片岡正樹（高知）
山代邦徳（島根）
佐東秀治（山形）
藤茂登寛（愛知）
栗岩淳一（東京）
吉田敏明（大阪）
小川孝信（千葉）
岡村尚明（東京）

以上14名でB級の資格が与えられた。

来年度（56年）からこのコースの参加資格は年令が25才までの者と変更されます。申し込み希望者は二月頃県協会に問い合わせ下さい

本誌別面でも報じられているとおり、日本協会では来る12月14日より20日（一週間）期日は未定であるが、全日本総合選手権大会時にワン・IHF審判委員長を講師に招きアジア地区のレフェリーコースを実施するよう計画、交渉中である。

56年8月競技規則の改正に伴なう改正点の解説と国際審判員のテストが実施可能になるよう期待している。受講希望者については、具体的な日程が決定次第各県協会審判委員長に連絡します。（岡前）

日本協会専門委員会だより

強化

▽7月の総会に基いてコーチ群をはじめ各分科活動に移った強化部の、最大のテーマは、男子ナショナルチームの今後の動きをどうするかである。

10月に予定されていた朝鮮民主々義人民共和国への遠征が行われていれば、オリンピックチームといわれてきた今年度上半期の活動にしめくくりがついたのだが、それが成らなかったため、これまでの体制を引きつぐでもなし、新しい方向へ踏み出すでもなしの中途半端な事態がつづいている。

8月31日大阪での男子強化コーチ会議でも、この点が問題となり、早急に、今年度下半期の活動方針を、竹野奉昭監督を中心にまとめあげることとなった。

席上、竹野監督から、新編成される男子ナショナルチームは①来年の世界選手権予選、②82年の世界選手権、③ロサンゼルス・オリンピックの三目標につながる必要があるため、大幅なメンバー増を行ない、このうち12～14名をAチーム、その他をBチームとする構想が述べられ大筋の合意をみた。

このほか、来年の世界ジュニアのため全日本ジュニアの早急な編成も必要となっているが、同選手権にアジア予選が行われるかどうか、いぜん不明のためもう一つ活動がリズムに乗っていない。

ナショナル、ジュニアナショナルとも遅くとも11月中にはリストの発表にこぎつけ、来年1月のジュニア強化合宿は実施したい意向だが、日本協会筋は、10月末の財団法人化時点で、荒川清美理事長の強化部長兼任を解く意向を示しておりもしそうなれば選手選考日程にも若干のズレが生じよう。

▽日本協会は9月の常務理事会で、強化部総括コーチ（日本体協登録）に、岡前義春理事の新任を決めた。

これまで総括コーチの任にあった藤原侑氏が、日本体協の大学強化拠点コーチ（ジュニア・コーチ）となり、兼任が認められないための異動である。

▽日本体協の海外派遣研修コーチとして、西ドイツ・ケルン体育大学に留学していた早川清孝コーチは、このほど1年間の研修期間を終え帰国した。今後は、男子強化コーチ群に所属する。

第21回全日本実業団選手権男子

大同特殊鋼が2年連続8度目の優勝

第21回高松宮杯全日本実業団選手権大会・男子の部は、9月1日〜3日まで9チームの精鋭を集め大阪市中央体育館で熱戦が繰り広げられた。
決勝は予想通り、大同×湧永の対戦となった。大同は、蒲生、中井・花輪などの活躍で8度目の勝利を手中に納めた。大崎（日本リーグ2部）が本田、日新を破り、3位となったのが光る。

▽第一回戦

日鉄建材 30（14 16 / 9 9）18 自衛隊勝田

得	【日建】		【自衛隊】	得
0	川上	GK	高橋	0
0	岩嶋			
1	寺原	FP	藤枝	7
4	若本		高岡	1
2	清原		斉藤	6
0	池辺		松井	1
5	外山	（審・北山・新井）	矢吹	0
11	杉本		高橋（哲）	0
7	山口		小松	1
0	内藤		市川	0
0	霜村		野高	2
30（8）		PT		（2）18

○…日鉄建材は自衛隊勝田のディフェンスの甘さをうまくつき、前半から確実にポイントをあげた一方、勝田は攻めが単調なためシュートミスが多く簡単に速攻をゆるし失点を重ねた。終始、日鉄ペースのゲーム展開であった。（栗山）

大崎電気ベストフォア入り

▽準々決勝

日新製鋼 29（6 2 ⋮ 10 11 / 1 1 ⋮ 12 9）23 三陽商会

得	【日製】		【三商】	得
0	三田	GK	吉近	0
0	西川		田村	0
3	泉	FP	関	3
12	徳田		金子	3
2	大庭		坪子	3
1	吹上		稲木	0
1	洞ケ瀬		山口	8
2	脇若	（審・北岡・丸岡）	石原	0
8	森		鵜沢	0
0	吉見		尾形	0
0	一瀬		斉藤	0
0	日野		大熊	6
29（3）		PT		（2）23

○…実力伯仲のチームの勝敗の予断程、難しいものはなく、前半押されぎみの三陽が、後半20分に逆転に成功。その後、逃げ切るかと思われたが、日新の必死の攻めが、タイムアップ3秒前に絶妙のスカイプレーが決まり延長戦にもつれ込ませた。延長の後半、日新は攻撃のリズムをとり戻し、追いすがる三陽を振り切ったゲームであったが、前半三陽が15分間、後半日新が13分間の無得点をくり返すゲームを展開したが、前後半を通してリズムある攻撃を最後まで続けることが如何に難しいものであるかを、如実に欠せてくれたゲームであった。（新村）

大崎電気 24（15 9 / 6 11）17 本田技研

得	【大電】		【本技】	得
0	岡部	GK	柴田	0
0	原田		大畑	0
7	斉藤	FP	田上	3
1	新田		佐藤	4
6	長野		喜井	2
1	佐梅		豊岡	1
5	松岡		佐々木	5
4	東江	（審・梅田・栗山）	矢野	1
0	宮崎		西田	0
0	小松原		高橋	0
			谷元	0
			坂本	1
24（2）		PT		（4）17

○…本田技は佐藤、大崎は斉藤の両選手を中心に速いパスワークからポスト、ミドルを決め、シーソーゲームを展開したが、本田の無理なシュートから逆速攻、又大崎、斉藤の素晴らしいミドルシュートで勝敗を決めた。（北山）

湧永薬品 21（12 9 / 6 6）12 三景

得	【湧薬】		【三景】	得
0	大城	GK	小林	0
0	福井		野田	0
3	津川	FP	山村	3
6	生駒		中馬	2
0	穂積		鈴木	3
0	藤本		加藤	0
2	志賀		島中	1
0	戸田	（審・　）	地主園	2
0	内田		奥村	0
1	松本		工藤	1
4	山本		高梨	0
5	池ノ上			
21（4）		PT		（2）12

○…前半、三景はポストから湧永は、ロングシュートからの攻撃で、10分経過迄、互角の戦いを進めたが、湧永の防御壁が厚くなり三景は攻めあぐんだ。湧永も攻撃の幅が小さく個人技に頼ったため得点差は前半を終って3点であった。後半は、GK福井からのボール出しのさえから速攻がみられ出し、セット攻撃にも余裕が出てきた。一方三景は、相手以上の積極攻撃をみせたが、防御壁の厚さと高さに最後までなやみつづけた。体力差がみせつけられた凡戦といえる。（新井）

大同特殊鋼 33（14 19 / 9 6）15 日鉄建材

得	【大　同】		【日建】	得
0	柳川（清）	GK	川上	0
0	山本		岩嶋	0
3	中井	FP	素原	0
0	松原		若本	1
1	花輪		清原	0
2	柳川（実）		池辺	2
10	大原		外山	1
0	中本	（審・北岡・丸岡）	杉本	5
4	浦田		内藤	1
6	蒲生		霜村	0
1	更谷		山口	5
6	小野			
33（1）		PT		（3）15

○…大同の一方的な試合になった主砲を抜いたとはいえ、日鉄は点差を気にせずチームとしてのまとまりで大同相手に2ケタの得点は立派だった。（梅田）

▽順位決定戦1回戦

三景 24（4 10 / 3 14）7 勝田自衛隊

○…前半試合立上り三景、勝田一対一で互格であったが、四対三から、勝田に元気なく、後半も一方的な三景の速攻がよく決まり、勝田の試合展開にひと工夫と活気が欲しかった。

得	【三景】		【勝　自】	得
0	小林	GK	高橋（多）	0
0	野田			
4	山村	FP	藤枝	0
4	中馬		高岡	3
3	鈴木		斉藤	2
1	加藤		松井	1
1	島中		矢吹	1
4	地主園	（審・新村・島崎）	高橋（昭）	0
4	工藤		小松	0
1	奥村		市川	0
2	高梨		野高	0
24（1）		PT		（0）7

順位決定戦2回戦①

三陽商会 31（16 15 / 8 4）12 日鉄建材

得	【三商】		【日建】	得
0	吉近	GK	川上	0
0	田村		岩嶋	0
6	関	FP	素原	3
3	金子		若本	1
2	坪子		清原	0
2	稲木		池辺	0
10	山口		外山	4
1	石原	（審・梅田・栗山）	杉本	4
3	鵜沢		山口	0
0	尾形		内藤	0
2	斉藤		霜村	0
2	大熊			
31（2）		PT		（1）12

○…小柄ながら全員の走りによるコンビネーションの良さで、内容的には互角の試合をみせ、日鉄建材の善戦が印象的ではあったが得点上の勝敗は体格的に優勢な三陽のものとなった。汗に濡れ動きを制約するユニホームを後半より着換えるために同種のものを用意する三陽ベンチの配慮に感心させられた。（新井）

▽順位決定戦2回戦②

本田技研 20（9 11 / 5 4）9 三景

【三景】

	選手	得
GK	小林	0
GK	野田	0
FP	山村	0
FP	中馬	2
FP	鈴木	4
FP	加藤	0
FP	島中	0
FP	地主園	3
FP	工藤	0
FP	奥村	0
FP	高梨	0

（審・丸岡・北岡）

【本技】

	選手	得
GK	梨田	0
GK	大畑	0
FP	田上	4
FP	佐藤	2
FP	喜井	3
FP	豊岡	2
FP	佐々木	4
FP	矢野	0
FP	高橋	1
FP	谷元	0
FP	坂本	3
FP	松本	1

20（7） PT （1） 9

○…大砲佐藤を中心にコンビが良く取れている本田技研は三景デフェンスが、佐藤をマークしすぎて楽々とポストプレーが成功し、着々と得点を重ねた。一方三景は、本田技研の固いデフェンスにはばまれてシュートも単発で三景は、もう少したての突っ込みを走りに一考を要したゲームであった。（島崎）

▽7位決定戦

三景 25（13－6 12－8）14 日鉄建材

【日建】

	選手	得
GK	川上	0
GK	岩嶋	0
FP	若本	1
FP	玉嶋	0
FP	素原	0
FP	清原	1
FP	地辺	3
FP	外山	2
FP	杉本	2
FP	山口	5
FP	内藤	0
FP	霜村	0

（審・丸岡・北岡）

【三景】

	選手	得
GK	小林	0
GK	野田	0
FP	山村	3
FP	中馬	3
FP	鈴木	6
FP	加藤	4
FP	島中	2
FP	地主園	5
FP	工藤	0
FP	奥村	0
FP	高梨	2

25（1） PT （1）14

○…日鉄建材は若いチームらしく最初から元気よく攻めるが、うまくリードできる選手がいなく、無理なシュートが多く、地力に勝る三景が試合功者の面目を発揮したゲームであった。（栗山）

▽5位決定戦

本田技研 26（10－11 16－9）20 三陽商会

【三商】

	選手	得
GK	吉近	0
GK	田村	0
FP	関	5
FP	金子	2
FP	坪子	1
FP	稲木	0
FP	山口	4
FP	石原	0
FP	鵜沢	4
FP	尾形	0
FP	斉藤	0
FP	大熊	4

（審・　　）

【本技】

	選手	得
GK	柴田	0
GK	大畑	0
FP	田上	6
FP	佐藤	9
FP	喜井	2
FP	豊岡	2
FP	佐々木	3
FP	矢野	1
FP	高橋	1
FP	谷元	0
FP	坂元	2
FP	野口	0

26（6） PT （1）20

○…本田技研は、佐藤、喜井を中心にボールを展開、ポストプレイを多用し、着々と得点した。三陽商会も、関のロングシュートで応戦したが、本田技研のゴールキーパー柴田の好守に点差は縮まらなかった。（北山）

▽準決勝

大同特殊鋼 29（14－8 15－5）13 日新製鋼

【日製】

	選手	得
GK	筒本	0
GK	山本	0
FP	泉	0
FP	徳田	2
FP	大庭	0
FP	吹上	4
FP	洞ケ瀬	1
FP	脇若	0
FP	森	2
FP	吉見	4
FP	湯中	0
FP	甲斐	0

（審・北山・新井）

【大同】

	選手	得
GK	柳川（清）	0
GK	山本	0
FP	中井	5
FP	松原	2
FP	花輪	4
FP	柳川（実）	3
FP	大原	2
FP	中本	2
FP	浦田	4
FP	蒲生	5
FP	小野	2
FP	藤中	0

29（0） PT （2）13

○…主砲清生を中心に、全員が得点できる能力を発揮し、確実に点を重ねていたのに対し、日新は大同の厚い壁にぶつかり、攻めきれず、速攻を生じた攻撃で得点した。（極田）

湧永薬品 19（12－9 7－6）15 大崎電気

【大電】

	選手	得
GK	岡部	0
GK	原田	0
FP	斉藤	4
FP	新田	2
FP	長野	4
FP	佐伯	1
FP	松岡	2
FP	東江	2
FP	宮崎	0
FP	小松原	0

（審・新村・島崎）

【湧薬】

	選手	得
GK	大城	0
GK	福井	0
FP	津川	1
FP	生駒	2
FP	穂積	1
FP	藤本	0
FP	志賀	2
FP	戸田	3
FP	内田	0
FP	松本	1
FP	山本	5
FP	池ノ上	4

19（3） PT （3）15

○…湧永は10分まで得点なし。大崎は昨日、本田を破ってペースに乗って最先良いスタートで2点連取。GKの好守で更に3点加点と好調の波に乗る。但し、日本一と言われる湧永は、時間がたつに従って得点を重ね、前半終了前に逆転する。後半に入って湧永ペースをつかんだかに見えたが、大崎の粘りある攻撃に苦戦一方。残り5分でやっと湧永ペースになり4点差とする。全体的に見て試合の流れは大崎であった。これも大崎のGK岡部の好守があったればこその試合の流れであろう。（丸岡）

大崎電気が大金星

▽3位決定戦

大崎電気 21（10－13 11－6）19 日新製鋼

【日製】

	選手	得
GK	三田	0
GK	筒本	0
FP	泉	1
FP	徳田	3
FP	大庭	4
FP	吹上	5
FP	洞ケ瀬	2
FP	脇若	1
FP	森	0
FP	吉見	3
FP	日野	0
FP	甲斐	0

（審・北山・新井）

【大電】

	選手	得
GK	岡部	0
GK	原田	0
FP	斉藤	4
FP	新田	2
FP	長野	5
FP	佐伯	5
FP	松岡	2
FP	東江	3
FP	宮崎	0
FP	小松原	0

21（2） PT （3）19

○…前半の中盤、日新の攻撃リズムがおちた間に走力に一日の長をみせる大崎が、長野を中心に着々と得点を重ね、ゲームの主導権を握り11対6と優位に立ち、後半を迎えたが老巧な日新は大庭を軸に吉見をよく走らせ、必死に追いあげをみせ、手に汗を握らせるゲームを展開したが、前半に優位に立った大崎がからくも逃げ切ったゲームであった。

宿命の対決、大同に軍配

▽決勝

大同特殊鋼 19（11－7 8－6）13 湧永薬品

【湧永】

	選手	得
GK	大城	0
GK	福井	0
FP	津川	5
FP	生駒	0
FP	穂積	1
FP	藤本	1
FP	志賀	1
FP	戸田	2
FP	内田	0
FP	松本	1
FP	山本	1
FP	池ノ上	1

（審・新村・島崎）

【大同】

	選手	得
GK	柳川（清）	0
GK	山本	0
FP	中井	3
FP	松原	0
FP	花輪	3
FP	柳川（実）	2
FP	大原	1
FP	中本	1
FP	浦田	0
FP	蒲生	7
FP	小野	1
FP	藤中	1

19（3） PT （0）13

○…試合の立上り大同の速攻が決り、前半15分過ぎまで、6対2とリズムにのりペースをつかんだかに思えたが、動きが悪くなり、そのすきを湧永が加点し、8対6の2点差で後半に入る。一進一退を続け、2点差ぐらいで残り10分頃、大同のシュートがよく決り、一気に加点し、リズムに乗り点差を開げた。中盤に、大同、中井の加点がひとときは光った。（北岡）

ベストセブン決まる

全日本実連は大会後、このの大会のベストセブンと新人王を次のように発表した。

柳川清、中井武三、蒲生晴明（大同）津川昭、池ノ上孝司（湧永）斉藤幸司（大崎）、佐藤要二（本田）

最優秀新人・山口克博（日鉄）

10年ぶりで関東実業団

全日本実連の後援によって関東実業団選手権が10年ぶりで復活、9月27、28の両日、横浜文化体育館に5県から14チーム（男子のみ）が参加してトーナメント法式で行われた。

優勝最有力とみられた日本リーグ1部の三陽商会（東京）が準決勝で大崎電気（埼玉）に敗れたため決勝は大崎×三景（東京）のリーグ2部勢による顔合せとなり、大崎電気が30－21で快勝、第1回以来の連続優勝を飾った。（詳報次号）

◇

大会主催者発行のプログラムは「第3回関東実業団選手権大会」となっているが、過去を通算するのならば第4回が正確。第1回は42年3月（本誌42号）、第2回は43年3月（52号）、第3回は45年4月（75号）、いずれも横浜で開催。

桐蔭学園高専が初優勝

全国高専選手権

第7回全国高専選手権は7月29、30の両日長野県戸倉町総合体育館（29日は更殖市民体育館併用）に15校が参加、トーナメント法式で行われた。

各校の実力伯仲から接戦がつづき、3年連続優勝を狙った岐阜高専（東海北陸）が緒戦で敗れるなど波乱ぶくみ。

決勝は、岐阜を降した桐蔭学園高専（関東信越・神奈川）と富山高専（東海北陸）の初顔合せとなり桐蔭が前半のリードを守って初優勝した。

▽1回戦

富山（東海北陸）25（13―7、12―9）16 鹿児島（九州）

桐蔭学園（関東信越）15（12―5、3―4）9 大阪府立（近畿）

鳥羽商船（東海北陸）19（13―2、6―3）5 高知（四国）

津山（中国）20（10―5、10―6）11 長岡（関東信越）

育英（関東信越）18（5―9、13―8）17 宇部（中国）

豊田（東海北陸）21（10―6、11―5）11 釧路（北海道）

秋田（東北）13（7―7、6―5）12 明石（近畿）

▽準々決勝

桐蔭学園 15（8―10、7―4）14 岐阜（東海北陸・前年優勝）

津山 13（8―4、5―6）10 鳥羽商船

富山 25（12―4、13―11）15 育英

秋田 23（11―6、12―7）13 豊田

▽準決勝

桐蔭学園 13（6―8、7―2）10 津山

富山 19（12―9、7―5）14 秋田

▽決勝

桐蔭学園 17（7―5、10―6）11 富山

（桐蔭学園優勝メンバー）▽監督 渡辺信▽マネ 横川博良▽GK林、高梨、FP加山、茅野、阿部、河村、大須賀、長嶺、黒木、江藤、柴田、井上、原、杉山、馬場。

全日本自衛隊選手権

勝田の3連勝成る

第十二回全日本自衛隊ハンドボール選手権大会は、9月6日と7日、東京都駒沢オリンピック公園体育館で行われた。

男子選手権の部は、勝田が三連勝5度目の優勝。女子の部も、三宿・中央病院の3連勝。

少年の部は、武山・少年工科学校の2連勝。壮年の部も、施設科（工兵）の2連勝。

▽成年男子1回戦

福島（陸・福島）12（6―0、6―0）0 神町（陸・山形）

東立川（陸・東京）12（6―0、6―0）0 宇都宮（陸・栃木）

木更津一ヘリ 12（6―0、6―0）0 古河（陸・茨城）

北熊本（陸・熊本）25（13―5、12―3）8 三宿（統合・東京）

鹿屋（海・鹿児島）12（6―0、6―0）0 徳島（海・徳島）

▽成長男子2回戦

福島 17（10―9、7―5）14 仙台（陸・宮城）

木更津一ヘリ 13（7―5、6―6）11 東立川

久里浜（陸・神奈川）15（13―0、2―7）7 北熊本

岩国（海・山口）31（17―11、14―9）20 鹿屋

▽成年男子準々決勝

福島 17（10―6、7―4）10 木更津一ヘリ

【木更】	得
GK 福元	0
鳥海	1
飯野	1
山之内	1
矢口	2
田村	0
吉鶴	3
宮崎	1
坂口	1
山岸	0

FP（審・高野 西田）

得	【福島】
0	GK 富永
2	杉内
4	木村
0	有賀
2	鈴木信
0	川島
2	斎藤
7	赤間
0	佐藤
0	森
0	鈴木義

17（1）PT（1）10

○…木更津は、前半3分と7分のペナルテースローを、福島のGK富永の蹴り上げにあい得点にならず。福島は、木更津のポイントゲッターでリードマンの鳥海をハーフコートをピッタリマークしてパスカットから速攻などで16分には6―1とし、その後も福島のペンスでゲームが展開した。（千川）

岩国 23（8―11、15―6）17 久里浜

【久里】	得
GK 西郷	0
GK 洲鎌	0
伊藤	0
藤田	3
中村	7
白坂	0
友利	3
北野	1
本堀	0
西岡	1
青野	2
畑中	0

FP（審・斎藤和 山田）

得	【岩国】
0	GK 中薗
3	松尾
0	中川
1	川口
0	堀之内
0	中村
2	藤原
5	林
9	横道
3	中嶋

23（1）PT（2）17

○…岩国は、前半当初より早いペースで、横道のジャンプ力を生かしたカッテングシュートを主体に得点を重ねた。久里浜は、後半守りを固め、ルーゼボールからの速攻とセットプレーにより反撃に転じたが、前半の差が大きくて敗退した。（山田）

▽成長男子準決勝

勝田（陸・茨城）29（16―6、13―5）11 福島

【福島】	得
GK 富永	0
杉内	1
木村	0
有賀	0
鈴木信	2
川島	0
赤間	8
斉藤	0
佐藤	0
森	0
鈴木義	0

FP（審・高野 小林）

得	【勝田】
0	GK 渡部
0	GK 高橋
6	藤枝
2	高田
4	斎藤
2	松井
6	額賀
1	野高
3	大坂間
2	矢吹
0	市川
2	小松

29（1）PT（5）11

○…勝田は、コナーと正面からのセット攻撃と準速攻で、誰れもが得点を上げ、余裕をもって得点を重ねた。福島は、GK富永のペナルティスローを止めるなどの好守と、赤間を軸とした攻撃で健闘したが勝負は実力差。（小林）

岩国 23（10―10、13―9）19 下総（海・千葉）

【下総】	得
GK 田中	0
金田	6
小室	2
三代	0
横山	4
渡辺	1
平野	4
片野	0
瀬戸	2

FP（審・山田利 斎藤和）

得	【岩国】
0	GK 中薗
2	松尾
0	中川
0	川口
0	堀之内
3	中村
4	藤原
3	林
9	横道
2	中嶋

23（2）PT（3）19



第12回全日本自衛隊選手権決勝。勝田，斉藤（4）のシュート（8）額賀　（駒沢体育館）

○…立ちあがり岩国は、林、横道の得点によりリード、サイドディフェンスを中央に引きつけてサイドからの攻撃で得点を重ね、サイドを固められるにつれて中央からの攻撃に切り替えて優位に立った。下総は立ちあがりのもろさが中盤になっても固まらず、徐々にあせりが出て攻撃が単調気味となり前半終了、後半、下総は全力をあげたが前半の差が縮められず敗退した。（山田）

▽成年男子決勝

勝田 25（14－10, 11－6）16 岩国

【岩国】		得
GK	中越	0
GK	末田	0
FP	松尾	0
FP	中川	0
FP	川口	1
FP	堀之内	0
FP	中村	4
FP	藤原	3
FP	林	3
FP	横道	3
FP	中島	2

【勝田】		得
GK	渡辺	0
GK	高橋	0
FP	藤枝	1
FP	高岡	3
FP	斉藤	10
FP	松井	3
FP	額賀	3
FP	大坂間	4
FP	矢吹	1
FP	市川	0
FP	小松	0
FP	野高	0

25（0）PT（7）16

○…前半5分間は互角の戦いであったが、中盤から岩国のパスミスが相手の得点に連なり6点差で前半終了。後半、勝田は立ちあがりから速攻・ミドルとシュートがきまりだした。岩国はあせりからパスミスが続き、終始勝田ペースで終了。特に勝田の松井のプレイは沈滞気味のゲームに活を入れていたのが目立った。（斎藤和）

44才のGK活躍

□…今大会は、日本リーグなどで経験豊富な「勝田」の貫録勝ちそのチームを育てた44才の富永劭氏が「福島」でチームを新設、初めてGKとなり、しかも今まで対チームの第一ペナルティスローを全部止めてしまう好守ぶり、新チームの士気が上り、本大会ベスト4に進出したのはお見事、そのファイトを称えたい。

三宿中央が圧勝

▽女子決勝

三宿・中央病院（陸・東京）11（4－3, 7－2）5 三宿・看護学生（陸・東京）

【看学】		得
GK	高橋	0
FP	田中	0
FP	原田	1
FP	伊藤	1
FP	渡辺	2
FP	青井	0
FP	高山	0
FP	柴田	0
FP	上田	1

【中病】		得
GK	斎藤	0
FP	本田	6
FP	宮原	1
FP	石井	4
FP	一戸	0
FP	四元	0
FP	小山	0
FP	岩戸	0
FP	臼井	0

（審・朝倉　坂本）

11（1）PT（0）5

▽少年男子リーグ

武山・少年工科学校（陸・神奈川）17（8－2, 9－2）4 江田島・少年術科学校（海・広島）

【江田】		得
GK	堂畑	0
GK	山玉	0
FP	寺井	0
FP	工藤	0
FP	岸	1
FP	横田	0
FP	藤田達	0
FP	山岡	3
FP	森	0
FP	満井	0
FP	藤岡稔	0
FP	森川	0

【武山】		得
GK	藤枝	0
GK	小和瀬	0
FP	鈴木	5
FP	西	4
FP	筒井	1
FP	秋庭	0
FP	松井	0
FP	太田原	4
FP	関根	0
FP	岸本	2
FP	江藤	1
FP	小川	0

（審・金沢　小林）

17（2）PT（1）4

江田島・少年術科学校 10（3－3, 7－3）6 熊谷・第四術科学校（空・埼玉）

武山・少年工科学校 24（12－0, 12－5）5 熊谷・第四術科学校

▽壮年男子決勝

施設科（陸）16（6－5, 10－7）12 武器・通信科（陸）

【武通】		得
GK	浅木	0
FP	有賀	3
FP	半谷	0
FP	金沢	5
FP	古庄	2
FP	小林	2
FP	藤原	0

【施設】		得
GK	塩田	0
FP	山田	0
FP	平山	2
FP	小松	6
FP	千川	2
FP	富永	6
FP	長谷場	0

（審・山口　斉藤）

16（1）PT（0）12

全日本総合予選　今冬12月16日から20日まで東京体育館で行われる第32回全日本総合選手権全国社会人東地区代表北海道代表決定戦は「ポイント・ジャック札幌」と大東クの間で争われ、20－15で「ポイント・ジャック札幌」が勝った。同チームは近く関東東北代表と全日本出場をかけて対戦する。

学生東西対抗戦

東軍男子（シニア）は辛勝

女子は東軍が圧倒的な強味示す

男子第30回、女子第12回全日本学生選抜東西対抗戦は、9月16日京都府立体育館で開催された。男子シニアは、残り一分の攻防で東軍がせり勝ち、対戦成績を19勝11敗とした。女子は東軍が終始圧倒的な強さを見せ、西軍のつけ入る隙を与えず快勝した。これで対戦成績は、東軍の9勝2敗1分となった。

ジュニア戦男子は、前半西軍がリードしたものの、後半東軍の反撃が功を奏し、逆転した。成績は東軍の2勝1敗。女子は両軍ともミスが目立ち、迫力に欠けつつ引き分けた。

▽男子シニア

東軍シニア 24（14－9、10－13）22 西軍シニア

○…東軍の13番を中必としたフェイントプレーでスタートし一気に6対2とリードした。しかし西軍も14番玉村のロングシュートで加点。前半20分には西軍の速攻が決まり逆転。西軍は前半を13対10の3点リードで折り返した。

後半に入り東軍西山のクィックプレーによるシュートで3点差をとり返し、逆に後半20分には東軍リードとなった。しかし西軍も亀井の活躍で再度同点に追いついた残り30秒で東軍西山のミドルシュートが決まり辛くも逃げ切った。

立ち上がりより両チーム共に持ち味を発揮して随所に好プレーが見られ最後まで勝負はわからないという好ゲームだった。肝じんな所で東軍GK井藤の好守に再三シュートをはばまれたのが最後まで響いて惜しい勝利を逃がした。（藤本）

▽女子シニア

東軍シニア 26（11－7、15－5）12 西軍シニア

○…西軍の先取得点でスタートしたゲームも5分以降は東軍がロングとサイドプレー速攻で着実に加点し前半を終了した時点で勝敗は明らかになった。混成の度合の強い西軍はコンビプレーが攻守にわたってかみあわずセットオフェンス・速攻ともに効率の悪い試合をみせた。一方東軍の動きは西軍に比べて一つのパスキャッチのたびにフェイントをかけたり、シュートモーションを袋こすなどディフェンスをゆさぶる基本動作に忠実でありながらコートを幅広く使ってのスピードあふれるゲーム展開をみせた。基本プレーを身につけた選手の多少が勝敗の分かれ目であった。（新井）

▽男子ジュニア

東軍ジュニア 22（16－8、6－8）16 西軍ジュニア

○…前半戦でみると個人技を主とする西軍、コンビというか組織力を生かそうとする東軍の闘いであった。パワーに勝る西軍がやや有利、東軍は選抜チームとしての練習不足かコンビプレーが嚙み合わず小さなミスが目立った。後半に入って東軍は、11番実方の起用が功を奏し4分で逆転し、8分には2点のリードを奪ったが、それが約7～8分間得点なく、その間に西軍は2点のリードを奪ったがこの頃から東軍のコンビネーションプレーが冴えて防御からの速攻で着々と得点して試合の主導権を握り、押し切った。東軍の幅広い得点に対し、西軍は4番山本、3番立木の得点源しかなく防御に対する読みと得点源の幅の狭さが敗

得	【東　軍】		【西　軍】	得
0	井藤・日体大	GK	上村・中京大	0
0	鷲巣・中央大	GK	中尾・大経大	0
0	松原・〃	FP	安田・大体大	1
3	矢島・筑波大	FP	砂川・〃	2
2	村崎・早大	FP	亀井・〃	5
2	溝部・日体大	FP	粟屋・同大	5
0	弓場・学院大	FP	纐纈・中京大	0
1	田口・中央大	FP	竹内・〃	0
2	猪野・〃	FP	村田・〃	0
1	藤井・〃	FP	松浦・山口大	0
1	尾上・〃	FP	前田・久工大	0
2	塚田・〃	FP	田野・京産大	3
10	西山・筑波大	FP	土山・大体大	2
0	井上・金工大	FP	玉村・〃	4
		（審・島崎・新村）	菅沼・〃	0
24	（2）	PT	（2）	22

得	【東　軍】		【西　軍】	得
0	高松・東女体	GK	宮崎・武庫川	0
0	高倉・日体大	GK	竹山・大体大	0
3	鈴木紀・〃	FP	沢村・武庫川	2
2	富山・〃	FP	清水・〃	3
6	藤本・東女体	FP	辰己・大体大	0
0	鈴木早・日体大	FP	福島・福岡大	0
2	石井・〃	FP	玉置・武庫川	1
3	大崎・〃	FP	川合・〃	0
5	加藤・〃	FP	西村・大教大	0
4	後藤・〃	FP	永井・中京大	0
1	浜村・東女	FP	堀井・中京女	2
		（審・藤本・福井）	夏目・愛教大	1
			松田・福教大	0
			富田・武庫川	3
26	（3）	PT	（3）	12

得	【東ジュニア】		【西ジュニア】	得
0	矢内・国士大	GK	蓑輪・名城大	0
0	中村・日体大	GK	小野・大体大	0
6	中川・中央大	FP	林・名城大	2
0	庄司・〃	FP	立木・〃	4
4	中島・筑波大	FP	山本・大体大	6
7	三浦・日体大	FP	上野・〃	0
1	安藤・〃	FP	高砂・同大	0
0	関口・早大	FP	伊藤・近畿大	0
1	永井・〃	FP	中野・大経大	0
0	鎌田・福島大	FP	吉川・大経大	0
3	実方・中央大	FP	長野・大体大	0
0	植田・金沢大	FP	吉野内・九産大	0
0	川久保・久工大	FP	三輪・中京大	1
0	宮下・	（審・大原・新井）	荷川取・中部工	3
22	（4）	PT	（2）	16

得	【東ジュニア】		【西ジュニア】	得
0	小野・日体大	GK	水谷・武庫川	0
0	久保・筑波大	GK	堀添・〃	0
3	天野・日体大	FP	山本・中京大	0
0	宇賀神・〃	FP	鈴木・〃	0
0	呉田・〃	FP	長越・〃	1
2	河原・筑波大	FP	竹田・愛教大	0
1	山口・〃	FP	藤山・武庫川	1
1	鈴木敬・〃	FP	塚田・大体大	1
1	鈴木智・東女体	FP	曽我部・福教大	1
0	増子・〃	FP	大久保・中京女	1
0	宮脇・〃	FP	神南・武庫川	0
0	島袋・〃	（審・望月・倉本）	伊勢・大体大	3
			正木・成蹊短	0
8	（1）	PT	（4）	8

因と云えよう。

▽女子ジュニア

東軍ジュニア 8（4－2、4－6）8 西軍ジュニア

○…前半、東軍の厚い防御陣に個人技とタイミングの悪い単調な攻めを繰り返した西軍が後半に入り、東軍のミスに乗じて10分に同点とし勢いに乗ったが、東軍も必死に防戦につとめ20分には、2点のリードを保ち、優位に立つが24分西軍の猛攻にあいタイムアップ寸前にペナルティーを決められ引き分けに終った。前、後半を通じて盛り上がりの少ないゲーム展開であったが、最後になって西軍の猛攻が場内をわかせたのが唯一のなぐさめであった。（新井）

後記

今大会は松ヤニの使用が禁止された。日頃松ヤニを使用して練習やリーグ戦に臨んでいる関東勢にとって、かなりプレーしにくい様であった。

松ヤニは、国際試合で使用を許されており、使用することにより攻防技術はより高度なものが要求されるようになる。

学生から、ナショナルチームのメンバーに名をつらね、今冷男子世界学生選手権に選手団を送るなど、学生界にも世界を目差し練習に励んでいる選手が多い。明日の日本を荷う学生の大会特に学生選抜の東西対抗戦で松ヤニを禁止することの是非を再考すべきときではないかと思う。

確かに松ヤニを使用すると体育館のフロアーが汚れるので、体育館管理者にとって敬遠されるだろうことは予想できる。しかし、何の対策も考えず禁止してしまったのでは、技術の向上にとってマイナスとなることが考えられる。

形態的ハンディのある日本人がヨーロッパ人と対等のボール保持能力（握り）を得る上で、松ヤニは欠かせないものである。そしてこの松ヤニも日頃使い慣れていなければ、自由に使いこなすこともできなくなる。

試合終了後フロアーについた松ヤニをふき取るなどの対策を考え松ヤニの使用意義を体育館管理者に理解してもらってはどうか。

多忙な大会運営の方々に、今まで以上の負担を荷すことは明らかなので、この方法がベストだとは考えない。

松ヤニ使用そのものの是非を含め、最良の方法を検討すべきだと考える。（平岡）

世界学生代表、発表延びる

全日本学連は東西対抗時、京都で役員会を開き、今冬12月の第8回世界学生選手権の派遣メンバーについて話し合ったが、名簿発表までにはいたらなかった。

早ければ10月下旬に明きらかにされる予定。

各地学生リーグ始まる

各地の秋季学生リーグが幕をあけた。

混戦といわれる関東（男子1部）は、第1日、春季3位の早稲田が国士館に18－17で敗れる波乱の幕あけとなり、9月末までに3戦を終って中央、日体が3勝をマーク他校をリードしている。速報次のとおり。

中央	34	－	20	順天堂
国士館	18	－	17	早稲田
日体	25	－	13	慶応
筑波	25	－	17	法政
日体	27	－	14	順天堂
早稲田	26	－	17	法政
筑波	19	－	18	国士館
中央	32	－	19	慶応
中央	32	－	20	国士館
日体	19	－	17	法政
早稲田	28	－	22	慶応

（10月の主な日程）14日、日体×早稲田、中央×筑波（駒沢体育館）、・18日 法政×慶応、中央×早稲田、日体×筑波（駒沢体育館）・26日 法政×国士館、早稲田×筑波、中央×日体（駒沢屋内球技場）

一方、関西は第4日を終って同志社3勝、大体大2勝がリード、両校の対戦は10月12日の予定。女子は武庫川女が和歌山大に34－6と圧勝するなど、いぜん強味を示している。

男女とも日体が完勝

▼第13回（女子第12回）日体×大阪体大定期戦（9月・日体大）

▽男子

日体 27（16－9、11－8）17 大阪体大

▽女子

日体 18（7－0、11－2）2 大阪体大

名大ク×円光ク戦10月に

本誌185号で報じた名大ク（愛知）と韓国・円光大クの第1回定期戦は、6月の予定が延びていたが、このほど10月18日から22日まで名大クが遠征して行われることが確定した。

ロス五輪は84年7月

来日中のP・ユベロス・ロサンゼルス・オリンピック組織委員会委員長は、東京での記者会見で、同オリンピックの日程などを明きらかにした。

それによると、大会は、一九八四年の七月二八日から八月十二日までとされ、ハンドボールの会場は「アナハイム・コンベンション・センター」が予定されている。

同オリンピックのハンドボール会場が、明きらかにされたのは初。

現在の計画では、同センターでは、フェンシング競技も行われる。













こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。



日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、また☑マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや☑マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を

預金も
信託も…

大和銀行

☑マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。



★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

―杉山　茂―
（NHK運動部）

世界男子の組み分け

ＩＨＦ(国際ハンドボール連盟)は、９月25日、来春２月21日から３月１日までフランスの各都市で行われる第３回世界男子選手権Ｂグループの予選組み分けを次のように発表した。

Ｂグループには12ケ国が参加、上位５カ国に第10回世界男子選手権（Ａグループ、82年２月・西ドイツ）のヨーロッパ大陸代表権が与えられる。

▽予選Ａ組　ポーランド、アイスランド、スウェーデン、オランダ、フランス、オーストリア。

▽同Ｂ組　スイス、デンマーク、チェコ、ブルガリア、イスラエル、ノルウェー。

なお本誌前号22頁で、モスクワ・オリンピックの結果、世界選手権（Ａグループ）への出場権を得た国が報じられているが、女子のハンガリーは開催国として既得権があり、モスクワ５位のチェコも出場権を握っている。

ブルガリア女子、力つける

いささか旧聞だが女子の二つのビッグトーナメントをお伝えしよう。

一つは11年目を迎えた東ドイツ国際。

東ドイツ、ユーゴ、ルーマニア、ポーランドのトップクラスにブルガリア、フランスが加ってのリーグ戦。

予想どおり、東ドイツ×ユーゴの優勝争いになったが、激戦の末東ドイツが12－10でユーゴをおさえた。

東ドイツは、昨年２月の日本遠征以来鳴りをひそめていたリヒターが本格的にカムバック、24ゴールをあげて「得点王」に輝いた。

２位以下はユーゴ、ルーマニア、ブルガリアの順。ブルガリアがワテーバ、ペッチエーワの活躍でポーランドをおさえたのが目立つ。

もう一つはハンガリーカップ。

地元ハンガリーが５試合で101点をあげ首位になったのは順当として東ドイツ国際で好調を示したブルガリアが、この大会でもチェコに17－13で勝ち、ポーランドと20－20で引き分け、２位に食いこんだ

スーパー杯に東ドイツ参加？

モスクワ・オリンピック男子で東ドイツが優勝したことから、あわてているのはＤＨＢ（西ドイツ協会）だ。

来年２月ドルトムントで開く「第２回スーパーカップ」に東ドイツの参加を予定していなかったからである。

同カップは、世界選手権優勝国とオリンピック優勝国だけに参加資格を制限している招待トーナメント。

モスクワの結果で、東ドイツにも権利ができたわけだが、ＤＨＢはすでに、スケジュールも内定しており、この時点での一カ国追加は難しそう。

一方、ファンは西ドイツが、モスクワ不参加だっただけに、なんとか東ドイツ出場をと望んでいるはたして、どんな結着となるやらちょっと気になる話である。

ソ連ジュニアが勝つ

チェコの伝統的なジュニア（男子）トーナメントが８月末キューバを含む八カ国九チームによって行われ、ソ連が優勝した。

東欧各国のジュニアに対する力の入れかたは、シニアなみといわれるが、この大会もほとんどの国が、ナショナルチームの監督に率いられて参加、激しい試合をくりひろげた。

決勝リーグへ勝ちあがったのはソ連、東ドイツ、ポーランド、ブルガリアで、有力視されていたルーマニアは、予選でソ連、東ドイツにおさえられた。キューバは最下位

ヘッペンハイム１部昇格

９月に入って、ヨーロッパ各国の全国リーグが一斉に始ったが、興味をひくのは西ドイツ・リーグに、ＶｆＬ・ヘッペンハイムが昇格していることだ。

熱心なファンならご記憶だろうが、53年春に来日して本田技研鈴鹿や大同特殊鋼にキリキリ舞いさせられたクラブチーム。

もっとも、当時は二部リーグ所属で、来日メンバーも若手のレギュラーを除いたものとチーム関係者はいっていたが、まさか、２年後、栄光のブンデス・リガ所属になるとは思ってもみなかった。来日メンバーの主力だったＷ・ツェーンバウアーが頑張っている。

ところで西ドイツファンを沸かせているのは、往年のスーパースター・ルブキングが率いるＴＢＶ・レムゴがついに二部リーグ「西北ゾーン」に昇格してきたことだ来月39才になるというルブキングだが、華麗な攻撃技術は健在、熱狂的なファンをしびれさせている。なんとか、ルブキングにもういちどブンデス・リガの舞台をと期待する人も多いそうだが、現在５戦して３勝２敗は苦しい。ルブキングは21ゴール。

教育系大学ハンドボール研修会報告

昭和55年度全国教員養成大学ハンドボール研修会は、要項通り、8月17日(日)～20日(水)の3泊4日の日程で筑波大学学生宿舎と筑波大学研修センターに宿泊し、同大学の施設を使用して講義実技の研修が行なわれた。筑波大学に会場を移して2年目にあたる今年は昨年の反省に基づき、生活面における食事の改善や、実技グランドの整備など受講生の研修意欲をいやが上にも盛り立てるよう配慮がなされ、又天候にも恵まれ実のある研修会となった。

。講師　(敬称略)
大西　武三　小山　哲央
一宮　昌平　平岡　秀雄
水上　一　浅野　鉦世
村松　誠　佐藤　靖

。助手
宮本・山下・大塚・土屋

。補佐
筑波大学男女ハンドボール部員

。参加者
男子　熊本大学　8名
山口大学　6名
島根大学　7名
鳥取大学　9名
京都教育大学　7名
信州大学　9名
都留文科大学　11名
駒沢大学　1名
創価大学　2名
女子　京都教育大学　10名
滋賀大学　14名
奈良女子大学　9名
愛知学院大学　6名
都留文秋大学　10名
駒沢大学　6名

以上男子61名、女子55名計116名が参加した。

・研修会日程

前日(8月16日)
16:00　受付
～
18:00

▼第1日(8月17日)
9:30　開講式
大西武三普及指導部長挨拶
講演〃ハンドボールの歴史〃
筑波大学講師水上一氏
10:30　。スタッフ紹介
。研修会の注意事項及び連絡事項の伝達
。調査事項の記入作成
12:00　昼食
14:00　技術研修
セットオフェンス法
セットディフェンス法
16:20　ゲーム
～
17:00
17:30　入浴・夕食
～
19:00
19:30　参加学生による交歓会
～
21:00

▼第2日(8月18日)
9:00　技術研修
〃攻撃の基礎〃
～
11:00　ゲーム
～
11:30
12:00　昼食
14:00　技術研修
〃戦術としての攻撃〃
速攻法
～
16:00
16:00　ゲーム
～
16:30　スタッフと選抜チームとの模範試合
17:00
17:30　入浴・夕食
～
19:00
19:30　講演と映画
日本体育大学講師
一宮昌平氏
～
21:00

▼第3日(8月19日)
9:00　技術研修
防禦の基礎
サイド攻撃法
～
10:00
11:00　ゲーム
～
11:30　昼食
14:00　技術研修
ポストシュート
15:00　ゴールキーパーの練習法
～
15:30　ゲーム
17:00
17:30　入浴・夕食
～
19:00
19:30　講演と映画
参加者の選択で三会場に分かれる。

▼第4日(8月20日)
9:00　講義
〃グリーンハンドボールについて〃　大西武三氏
10:00　分科会
参加者と講師によるQ&A
10:45　全体ミーティング
。ハンドボールのルールテスト
。参加者感想文作成
。講師より一言
11:30　閉講式
研修会修了証授与

技術研修内容

今年度は一グループ20名以内におさめるよう考慮しかつチームの各地方のリーグ戦での成績等を参考にしてグループ内の等質化を図り、指導が効率よく行なわれるよう配慮し、男子3グループ、女子3グループの6グループに分けた又各グループには講師1：2名助手1名、補助員2・3名を配置し万全の指導体制をしいた。

グループ分けは次の通りである。

総括責任者　大西武三氏

Aグループ　指導者　平岡秀雄氏
京教大・山口大・熊本大

Bグループ　指導者　小山哲央氏
一宮昌平氏
駒沢・創価・信州・島根

Cグループ　指導者　村松　誠氏
鳥取大　都留文大

Dグループ　指導者　浅野鉦世氏
。都留文科大・奈良女子大

Eグループ　指導者　水上　一氏
。京都教育大・駒沢大

Fグループ　指導者　佐藤　靖氏
。滋賀大・愛知学院大

以上のグループで前述の日程に沿って指導が行なわれた。

指導内容

今回はチームによる協同創作の場である試合でいかにしたらすばらしい創作品を作り上げることが出来るかということを主眼に、そ

れを作り上げるための練習の基本的な考え方を明確にして指導が行なわれた。

A練習の基本的な考え方

1ゲームでの課題をみつける。（技術・戦術・体力等）

2ゲームの場面に似た型の練習をする。

3ディフェンスの人数を少なくした型でパターンの選択練習をする。

4オフェンス・ディフェンスの人数を対等にして攻防練習をする

5 6：6の中で以上のことを反復する。

6ゲームで行ってみる。

この1～6の繰返しによってチームの技術向上をめざす。

Bゲームの成り立ち

セットオフェンス→もどりのOF速攻→セットディフェンスの繰返しで成り立っている。

指導要項

この基本方針のもとに指導案が作成され次のような指導が行なわれた。

▼第1日　午前

◦セットオフェンス及びセットディフェンス。

ここではワン・ポストあるいはダブルポストにおける基本的なパスワークの練習とそれに対するディフェンスの防禦法が指導されたオフェンス・ディフェンスそれぞれに次の事項を徹底させた。

オフェンス

1、シュートを狙いながらパスをすること。

2、ポストへのパスを狙いながらパスをすること。

3、ボールをもらう前に動くこと

4、パスした後ステップバックして早く次の動きに備えること。

ディフェンス

1、ボールを持っているプレーヤーに対してシュートされない距離までつめること。

2、ボールを保持するプレヤーにプレッシャーをかけること（ボールアタック）

3、パスされたらさがって守ること。

4、マークの声を常に出すこと。

5、ボールの方向に寄ること。

◦ミニゲーム

▼第2日　午前

〝パスワークの中で1対1を破る〟という課題のもとに次のような指導が行なわれた。

◦一対一におけるオフェンスの動作パターンの練習

1、ストライドストップからの方向変換。

2、ジャンプストップからの方向変換。

3、ステップモーションからの方向変換。

4、パスフェイクしてからのカットイン。

5、カットインしながらのパスフェイク。

◦2対1の選択練習（たて型）

◦2対2の攻防

イ、たて型の2対2

ロ、横型の2対2

◦6対6

前述で学んだ基礎的攻撃法をパスワークの中で生かすことをねらいとした。

◦ミニゲーム

▼第2日　午後

〝速攻とその防禦〟を課題に次のような指導が行なわれた。

1、一次速攻の練習

イ、ルーズボールからのドリブル速攻

ロ、一マン速攻

ハ、二メン速攻

2、二次速攻の練習

イ、3：2の速攻

ロ、4：3の速攻

3、一次速攻と二次速攻の組み合せ練習

イ、3：2の速攻

ロ、4：3の速攻

4、ゲーム的速攻（6：6）練習

5、ゲーム

▼第3日　午前

〝防禦の基礎及びサイド攻撃法〟を課題に指導が行なわれた。

(1) 防禦の基礎

イ、防禦のスタンス

ロ、防禦のフットワーク

ハ、シュートカット

ニ、チェンジとマンツーマンの方法

(2) サイド攻撃

イ、サイドシュートのパターン練習

1、ダイビングシュート

2、角度を広くするシュート

3、腕の変化によるシュート

4、フェイントからのシュート

5、パスフェイクからのシュート

6、まわり込みからのシュート

ロ、2対1のサイド攻撃法

ハ、3対2のサイド攻撃法

ニ、3対3のサイド攻撃法

ホ、サイド攻撃を主体としての総合練習（6対6）

3、ゲーム

▼第3日　午後

〝ポストシュート及びの練習法〟を課題に指導が行なわれた。

1、種々のポストシュートの練習

イ、ノーステップシュート

ロ、右足・左足・両足ジャンプシュート

ハ、浮いてのミドルシュート

ニ、ピポットフェイントからのシュート

2、GKの練習法

イ、その場でのシュートボールに対する処理

ロ、下のシュートに対す処理

ハ、くずれた態勢からのシュート阻止

ニ、ジャンピング阻止

ホ、位置どりの基本練習

3、コンビネーションプレーの練習

4、6対6の総合練習

5、ゲーム

▼講義内容（要約）

〝ハンドボールの歴史について〟

講師　水上　一氏

一、ハンドボールの起源

ハンドボールゲームの起源としては、競技形態を有したものを考えなければいけない。そういう意味からハンドボールゲームは、11人制としてのドイツ・7人制（室内ゲーム）としての北欧の二つの方向から起ったと考えても良い。

一九〇〇年頃ロシアでも現在のハンドボール競技とよく似たものがなされていたが、世界的に広まったのは、ドイツの11人制が確立されてからだと言える。

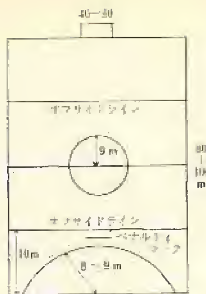
ドイツの11人制ハンドボールはドアベール（女性のためのボールゲームであってパスをつないでゴールに運び込むものであった）から男子がゲームとしてやり始めたものを総合して、カールシュレンツェが考案し、確立したものである。

二、カールシュレンツェのハンドボール

走・跳・投と自然性を持った競技である。この原則を基にルール

を作っていった。3歩を越えて走ってはいけない。3秒を越えてボールを保持してはいけない。相手のボールをはたいてはいけない。

これらのルールを基に近代のハンドボールゲームは学校体育の中で発展していった。



当時のコート

クリーンハンドボールについて

講師　大西武三氏

ハンドボールは大正十一年欧米視察から帰国した大谷武一氏によって紹介されるやいち早く学校体育の中に取り入れられ十一人制から7人制への変換期をへて今日に至っている。それはスピーディで変化に富んだ競技特質のため、激しい身体接触の場が多いことはやむをえない。しかしながら第3者が憂慮すべき問題として悪質な身体接触が戦術として用いられていることである。このことは今後のハンドボールの一層の発展を期す我々が考えなければならない問題であり、我々ハンドボールを愛する者としてはルールに基づいたクリーンなハンドボールを行ない、又指導して、今後の発展に寄与しなければならない。

今回の研修会の特徴

1、実技研修に重点が置かれたこと、従来、ややもすると時間的制約の為必要な内容を織り込めなかった面をこれによってある程度解消できた。

2、一グループ20名以内におさえたこと。これにより一層充実した指導が行なえた。

3、受講生の学習意欲を高める為指導内容をプリント配布したこと。

4、リーグ戦により全チームを対戦させたこと。

5、ゲームでは初心者グループを作り、ゲーム経験をつませたこと。

6、傷害保険をかけることによって安全対策を万全にしたこと。

参加者の感想文にみる良かった点と問題点

(良かった点)

。ハンドボールのおもしろさがわかりかけてきた

。基礎的なことの大切さを痛感した

。マンネリ化した練習から脱皮できる

。練習方法がよくわかった。

。食事がとてもよかった。

。効果的なプログラムであった。

。映画がすばらしかった。

。施設・設備がすばらしかった。

。講師の丁寧で熱心な姿勢に好感がもてた。

。この研修を今後も続けてほしい

(問題点)

。講師の模範技をもっと見たかった

。チーム全体の批評や今後の指針などをもっと教えてもらいたい

。自分で選択できるグールピングをして欲しい

。手頃な人数で十分に講習を受けることが出来た

。交通事情により盆前後の開催をさけて欲しい

。関西地方でも研修会をして欲しい。

。研修内容を整理する時間的余裕がない。

。日程が短かすぎた。

。グランドのそばにトイレがなく不便であった。

。体育館での練習もしたかった。

終りに

今年もこの研修会を無事に終え我々運営委員が感じることは、受講生の熱心な研修態度や、研修会を終え最後の務めとして感想文に目を通す指導者の方々の熱いまなざしである。このような姿が、我々にハンドボールの普及に対する新たな意欲を芽生えさせてくれるのである。今後ともより一層この研修会が充実したものになるよう我々運営委員一同努力していきたいと同時にこのような催し物によって、この中から一人でも多くのハンドボール指導者や愛好家が育っていくことを期待してやまない。又この研修会の為に御尽力下さった講師の先生方及び陰の力となって協力してくれた筑波大学ハンドボール部員に感謝しつつ報告を終りたい。

(普及部)

全国にアンケート求む

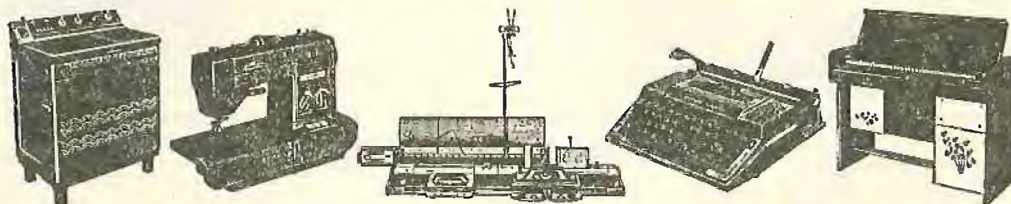
「クラブ問題」大詰へ

日本協会では、ここ数年来の懸案となっている「クラブ問題」について、今年度内に一つの方向を打ち出すことを決め、普及部では近く、全国のクラブ関係者、都道府県協会にアンケートを求める。

クラブ問題は、「クラブ」の定義から、つねに論議を呼び、現在では、「実連、学連に加盟していないチーム、ただし教職員だけのチーム、自衛隊員だけのチームもこれに準ずる」のが一般的。

日本協会は、昭和45年以降、各ブロックでクラブ大会を促進するようつとめ「日本協会杯」を贈るなどしており、クラブのタテ組織の強化の声が高まれば、ブロック大会とのかねあいが、最大の課題になる。





プレス・ルーム ＜27＞

小 山 敏 昭
——（共同通信社運動部）—

■強化拠点校の活躍を期待

日本のスポーツ界を根本から立て直すために日体体協・競技力向上委員会（稲山信義委員長）が中心となって考え出したジュニア強化構想の一環として「大学選手強化拠点」事業が始動した。

この事業、実は昨年メキシコ市で開かれたユニバシアード夏季大会で世界の大学スポーツ界の停滞が報告され、またオリンピック参加選手中に占める大学現役選手の割り合いが極端に減少したことから、競技力向上委が中心となってプロジェクトチームを作り、検討してまとめられたもの。

①全日本級の選手を擁する運動部②過去に全日本のタイトルなど数々の実績を持つ運動部—などの力のある大学運動部を選考し、オリンピック種目にある競技では「オリンピック選手強化拠点部」それ以外の競技では「国際競技力強化拠点部」として指定し、体協の競技力向上委の認定証を授与すると同時に、一定の補助金を出して育成に務めようというもの。

今年は各競技別に七十二の運動部が指定され、年間約八十万円から約四十五万円までの幅で体協の補助金が支出されることになっている。

ところで今回、各強化拠点部の選考は初めてということもあって各競技団体の主体的な選考に費されたが、ハンドボールは男子が日体大と中大、女子が日体大と三部（日体大は男女別）が指定された。現在関東大学リーグ、全日本学生選手権で活躍する三部だけに、競技力向上委の意向にそったものだと思われる。

だが他の競技団体によっては拠点部の選考に当たり、大激論が交されたところもあった。それというのも大学勢の力は世代、世代によって変化し、伝統校といえども二部や三部に落ちているところもあり、反対に新興校のなかでもめきめき力をつけ、日本一を争うほどの力を持つ部もあるからである。

今回は初の事業で、選考基準ももうひとつ厳密でなかったことからこうした問題が出たのだが、ハンドボールにおいてはこうしたことがなかっただけでも幸いといえよう。

さて今後の問題は体協推薦の〃お墨付き〃をもらった各部がどんな活躍をみせるかにある。

もちろん大学選手権でタイトルを取ることはいうまでもないが、できれば大同や湧永など実業団勢を倒して全日本でも優勝して欲しいものだ。そしてオリンピック代表選手を何人も作ってもらいたい。

年間約八十万円では一回合宿を行っただけで、すぐになくなってしまうわずかな金額だ。しかし金額の多少ではない。日本で現在百を越す部の中から選ばれたハンドボール各部の〃名誉〃ははかり知れない。福山委員長も「額は少なくて申し訳ない。初の事業だし、大学生の立て直しのきっかけになってくれればと思っている。とにかく大学を強くしたいという気持を汲んで欲しい」と話している。

■海外活動の報道も積極的に

日本オリンピック委員会（JOC）のモスクワ大会不参加のせいか、今秋は海外交流が盛んに行われている。

体協でも日本船舶振興会や日本自転車振興会などからの高額な寄付によって、オリンピック不参加の〃おわび行事〃としてモスクワ出場予定だった競技には特別に海外交流を認めている。

オリンピックに参加しないことによって日本の国際的な競技力が低下するのはどうしようもないところだが、その分をこれから取り戻さねば、一九八四年のロサンゼルス大会に出場できない可能性もある。

ハンドボールではことし大同特殊鋼が欧州遠征、大崎電気(女子)がルーマニア、ユーゴなどの東欧遠征と単独チームが積極的に海外へ出かけて強化を図ってきた。

単独チームといえども、どんどん海外に行って、本場の技とプレーを身につけてくることは日本ハンドボール界全体にとって大変意義のあることで、財政さえ許せば今後も増えて欲しい。

ところでこうした単独チームが海外でどんな成績を残こしたのかチームの関係者ばかりでなく、われわれ報道関係も知りたいところである。

今回は大崎電気が不本意な成績で帰国したにもかかわらず、それを報道関係に協会を通じて流してくれたことは大変勇気のあることだと思う。多少日時が古かったことから紙面に載ることはなかったが、今後なんらかの資料になることは間違いない。

現在バレーボール協会やサッカー協会などのように単独チームの海外遠征でもマメに結果を報告してくれる協会があるかと思えば、「我関せず」とばかり、全くなんの連絡もない競技団体もある。

前号で杉山茂氏が指摘しておられたように地方紙のなかでもハンドボールに対して大きく記事を扱ってくれる新聞社も多い。それを考えれば、各チームは是非協会に成績を報告してもらいたいものである。電話事情さえ許せば海外からでも協会宛に連絡してもらえれば翌日にも新聞に載ることもあろう今後も日本リーグの各チームや大学勢が遠征するときは、やや手前みそな注文だが、是非協力願いたいものである。

大会ガイド

栃の葉国体展望

第35回国民体育大会・栃の葉国体は、10月12日宇都宮での総合開会式のあと、ハンドボール競技は13日から17日まで栃木市で行われる。

すでに発表された組み合せをみながら、優勝争いなどを探ってみた。

大同×湧永、ここでも激突

〔成年男子〕クラブチームが過半数以上を占めるが、優勝争いは大同、湧永、大阪イーグルスの日本リーグ勢とみるのが順当だ。

この〝三強〟にからむのは、地元の期待を集めている栃の葉ク。よほどのことがない限り準決勝は大同×栃の葉、湧永×大阪イーグルス。

栃の葉は、練習試合で大同に勝った記録があるようだが、その時と本番では、大同の充実度がちがう。

ましてや初のヨーロッパ遠征で本場の専門家から折紙をつけられた実力と自信は大きい。

気力では大同をしのぐとみられる栃の葉も、決勝進出は難しかろう。

一方のカードは湧永有利。イーグルスは一本勝負の妙を活かしたいが、豪華メンバーを並べる湧永の総合力はスキがない。

大同×湧永の決勝となれば、国体全競技のなかでも屈指の顔合せとなる。

全日本実業団（9月）を取った大同は、再び「四冠独占」に意欲を燃やしはじめたようで、一方の湧永としては、国体で敗れると、大同の野望をすんなり許してしまうことになる。壮烈な一戦がくりひろげられることは間違いない。

ダークホースには大崎電気、千葉教員の関東勢と湯沢クをあげたい。

大崎×湯沢クの勝者は、イーグルスに一泡ふかせるチーム力がある。

地元の期待集める日立栃木

〔成年女子〕史上二度目の全県参加制だが鹿児島代表が欠場、今回も47チームフルエントリーとはいかなかった。だが2年にいちどのOG集結は嬉しい話。

駒を進めてきた多くのクラブも都道府県対抗とはいえ「勝負は二の次」として、ひたすら本大会出場だけを目指した。

なかでも異色は、主婦中心のポスト・ク（静岡）で、日本協会も「全県参加の意義が充分果たされた」と喜んでいる。

もちろん秘かに上位進出を狙うクラブがないわけではなく、全国クラブ大会1位（7月）の彦根BSク、をはじめ全和洋、興南OG、徳山ク、桐花ク、長崎ク、大分東シニア、日本光電ク、京都クなどの活躍には注目が集まる。

しかし、優勝争いを頂点とする上位戦線は、今年もやはり日本リーグ勢の激突で進められよう。

波乱なくいけば準々決勝は日本ビクター×東京重機、北国銀行×日立栃木、ブラザー工業×立石電機、大崎電気×ジャスコで落ち着こう。

重機に代ってムネカタ、北国より大和銀行というみかたもあろうが、日本リーグ進行中の大会とあれば1部勢の力が上とみたい。

ベストエイトをさらに一歩しぼるとビクター、日立、立石、ジャスコが四強か。

このうちジャスコが、ヨーロッパ合宿の成果を示しつつある大崎と対戦するのは、このあと日本リーグ、全日本総合（12月）の行方を追う意味でも興味深い。

大崎の充実を買っても、ここはやはりジャスコか。

さて優勝争いだが、どのようなカードになっても日立優勢と推したいが、いかがなものか。

地元大会へかける意気ごみ、練習量は大したものだ。

不安があるとすれば「期待」という名のプレッシャー。

ベテラン主体のビクターがこをつくと準決勝はもつれる。

立石×ジャスコは、僅かにジャスコ有利とみるが、立石は全日本実業団（5月）当時より、はるかにチーム力を引きあげている。

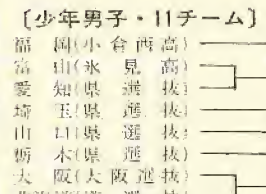
日立×立石の決勝戦の可能性も充分あろう。

小倉西高追う各県選抜

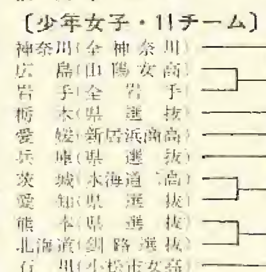
〔少年男子〕8県からコンバインドチームが送りこまれてきた。

インターハイ優勝の小倉西高、

〔少年男子・11チーム〕



〔少年女子・11チーム〕



同ベストエイトの新居浜工高らは選抜チームの包囲をうけるわけだが、この展開は、今後の国体少年の部のいきかたにもかかわってくる。

優勝争いは、最終的にはコンバインドチームの〝団結度〟がカギとなる。

顔ぶれから判断すると、これ以上望めないメンバーでも、実戦でその力が出るかどうかが、こうしたチームの不安材料だからだ。

最近は、このあたりを承知して、ある特定チームを母体に、そこへ二〜三の有力選手を補強する傾向が強いため、いっそう予想がたてにくい。

王者・小倉西高を一番手に、インターハイ2位の川口工を軸とした埼玉、九州の激戦から勝ちあがった沖縄選抜をトップグループとし、愛知選抜、大阪選抜、それに氷見高、新居浜工高が追うことになるのではなかろうか。

栃木選抜は大阪戦が大きなヤマ

愛知選抜×小松が焦点

〔少年女子〕Bパートに有力チームが片寄ってしまった。

Aパートは、抜群の力をもつチームがなく、優勝はBパートから出るものと想われる。

最有力は、インターハイ優勝の市邮学園メンバーをもつ愛知選抜

水海道二高や兵庫選抜にとっては、インターハイの雪じょく戦になるが、愛知の自信は、この難関を切り抜けよう。

熊本選抜、釧路選抜、小松市女高のなかから、愛知の準決勝の相手が決まるわけだが、小松市女高のまとまりが両選抜をしのぎそうだ。

愛知×小松市女高となると予断は許せない。

愛知に代って水海道二高、兵庫が進出してくるようだと、小松市女高がすんなり勝利を握ろう。

小松市女高にとって要注意は熊本選抜。

Aパートは、栃木選抜がクジ運を活かしたいところだが、山陽女高が、どう出てくるか。

愛知×栃木、少年がカギに

〔得点争い〕・天皇杯（男女総合優勝）四部門に有力チームを送っている愛知、栃木の争いだ。

大同、日立が互角とみて、カギは少年部門。女子に決め手があるだけ愛知有利だが、栃木は男女とも手固くいけば、このハンデはあまり響かない。

追うのは広島、北海道、埼玉、熊本、愛媛、茨城あたりだろうが、愛知、栃木を上まわるには、かなり強い旋風を吹きおこさねばなるまい。

・皇后杯（女子総合優勝）十一道県が二部門に代表を送っているが、どちらも上位進出が期待できるのは愛知、茨城、栃木、熊本、石川。

栃木を除く四県は少年で星をつぶし合う組み合せだけに、ここでの激突が大きなポイント。栃木わずかにリードとしておこう。

高校男子の伸び鈍化

日本協会は、このほど今年度（7月15日現在）の競技人口を発表した。

それによると総チームは二千七百（前年比百四増）、総競技人口は四九、一四四名（同四、三六一名増）となっている。

高校チームは一九七二（男女計）で全体の73％と〝勢力〟を誇るが、男子は前年比13校増に留っている

〔成年男子・11チーム〕

愛　知（大同特殊鋼）
北海道（函館有斗ク）
宮　崎（オール宮崎）
香　川（讃岐ク）
栃　木（栃の葉ク）
大　阪（大阪イーグルス）
埼　玉（大崎電気）
秋　田（湯沢ク）
千　葉（千葉教員）
富　山（オール富山）
広　島（湧永薬品）

〔成年女子・46チーム〕

茨　城（日本ビクター）
福　井（全福井）
広　島（広島H・F・G）
秋　田（全和洋）
岐　阜（岐阜選抜）
福　島（ムネカタ）
徳　島（池田ク）
宮　崎（宮崎ク）
鳥　取（米子ク）
北海道（室商OG）
東　京（東京重機）
石　川（北国銀行）
沖　縄（興南OG）
長　野（小諸商ク）
山　梨（日川ク）
山　口（徳山ク）
大　阪（大和銀行）
岩　手（桐花ク）
奈　良（生駒ク）
香　川（高松商ク）
長　崎（長崎ク）
静　岡（ホストク）
栃　木（日立栃木）
愛　知（ブラザー工業）
島　根（松江ク）
山　形（米子女高OG）
千　葉（千葉ク）
大　分（大分東シニア）
和歌山（和歌山商工信組）
滋　賀（彦根BSS）
青　森（オール青森）
富　山（オール富山）
群　馬（日本光電ク）
高　知（高知ク）
熊　本（京石電機）
埼　玉（大崎電気）
愛　媛（松山ク）
福　岡（福岡ク）
新　潟（江南OG）
兵　庫（兵庫選抜）
岡　山（天城OG）
宮　城（オール宮城）
佐　賀（神埼ク）
神奈川（全神奈川）
京　都（京都ク）
三　重（ジャスコ）

栃の葉国体ブロック予選記録

北海道 （8月19～20日・札幌中島）

▼成年男子準々決勝
函館有斗ク 33—6 トムキャット
千歳ク 33—25 釧路ク
大谷ク 19—17 道日体ク
鶴陵ク 54—14 ポイントジャック
▽同準決勝
函館有斗ク 34—13 千歳ク
鶴陵ク 31—17 大谷ク
▽同代表決定戦
函館有斗ク 26—14 鶴陵ク
▼成年女子準決勝
室蘭商OG 28—3 上磯ク
釧路ク 20—7 登別OG
▽同決勝
室蘭商OG 18—12 釧路ク
▼少年男子準々決勝
八雲高 14—7 札幌西高
室蘭工高 24—17 札幌北陵高
函館選抜 17—14 釧路商高
紋別北高 15—13 釧路湖陵高
▽同準決勝
函館選抜 27—17 八雲高
室蘭工高 22—9 紋別北高
▽同代表決定戦
函館選抜 33—8 室蘭工高
▼少年女子1回戦
釧路商高 16—10 恵庭南高
釧路江南高 16—2 札幌丘珠高
釧路湖陵高 6—4 函館商高
▽同準決勝
釧路江南高 8—3 釧路湖陵高
釧路商高 5—4 函館女商高
▽同代表決定戦
釧路商高 10—5 釧路江南高

東北 （8月26～27日・盛岡市）

▼成年男子1回戦
青森（全青森） 27—16 福島（SGク）
岩手（岩手教員ク） 34—12 山形（山形ク）
▽同準決勝
宮城（全宮城） 26—24 青森
秋田（湯沢ク） 24—19 岩手
▽同代表決定戦
秋田 39—17 宮城
▼少年男子1回戦
岩手（全岩手） 13（延）12 青森（全青森）
秋田（大曲農高） 17—8 宮城（選抜）
▽同準決勝
福島（選抜） 16—8 岩手
秋田 22—17 山形（全山形）
▽同代表決定戦
福島 25—12 秋田
▼少年女子1回戦
岩手（全岩手） 6—5 宮城（全宮城）
秋田（和洋女高） 13—2 山形（米沢女高）
▽同準決勝
岩手 7—6 福島（選抜）
秋田 13—7 青森（全青森）
▽同代表決定戦
岩手 9—5 秋田

関東 （8月29～31日・横浜）

▼成年男子1回戦
埼玉（大崎電気） 30—14 神奈川（全神奈川）
東京（三景） 16—15 茨城（全茨城）
千葉（千葉教員） 37—24 山梨（全山梨）
▽同代表決定戦
埼玉 28—24 群馬（群馬教員）
千葉 22—18 東京
▼少年男子1回戦
埼玉（選抜） 31—13 茨城（選抜）
群馬（全群馬） 22—14 山梨（選抜）
神奈川（全神奈川） 26—15 千葉（選抜）
▽同準決勝
埼玉 26（延）25 東京（中大付高）
神奈川 19—15 群馬
▽同代表決定戦
埼玉 22—18 神奈川
▼少年女子1回戦
茨城（水海道二高） 10—6 千葉（選抜）
埼玉（選抜） 11—8 山梨（選抜）
神奈川（全神奈川） 14（延）12 群馬（全群馬）
▽同代表決定戦
茨城 6—5 東京（選抜）
神奈川 10—4 埼玉

北信越 （8月30、31日・高岡）

▼成年男子1回戦
福井（全福井） 24—12 石川（金沢市役所）
▽同準決勝
富山（全富山） 22—19 福井
長野（北農ク） 27—16 新潟（柏崎ク）
▽同代表決定戦
富山 39—16 長野
▼少年男子1回戦
富山（氷見高） 26—4 新潟（全新潟）
▽同準決勝
石川（小松工高） 25—11 福井（全福井）
富山（氷見高） 36—13 長野（小諸商高）
▽同代表決定戦
富山 26—15 石川
▼少年女子1回戦
長野（全長野） 13—2 新潟（江南高）
▽同準決勝
富山（有磯高） 11—9 福井（全福井）
石川（小松市女高） 16—3 長野（全長野）
▽同代表決定戦
石川 14—6 富山

東海 （8月30、31日・名古屋）

▼成年男子1回戦
愛知（大同特殊鋼） 36—5 静岡
三重（本田技研鈴鹿） 38—11 岐阜（岐阜教員）
▽同代表決定戦
愛知 28—13 三重
▼少年男子1回戦
愛知（選抜） 19—13 静岡
岐阜（選抜） 22—29 三重（四日市工高）
▽同代表決定戦
愛知 22—12 岐阜
▼少年女子1回戦
愛知（選抜） 18—8 三重
岐阜（選抜） 17（延）14 静岡（選抜）
▽同代表決定戦
愛知 19—9 岐阜

近畿 （8月23～25日・京都舞鶴）

▼成年男子1回戦
大阪 17—9 兵庫
和歌山 27—20 奈良
▽同準決勝
大阪 18—9 京都
滋賀 32—17 和歌山
▽同代表決定戦
大阪 22—14 滋賀
▼少年男子1回戦
大阪 15—8 京都

兵庫19―7奈良
▽同準決勝
大阪16―9和歌山
兵庫29―12滋賀
▽同決勝
大阪15(延)14兵庫
▼少年女子1回戦
奈良9―6和歌山
兵庫5―4大阪
▽同準決勝
滋賀16―3奈良
兵庫14―8京都
▽同代表決定戦
兵庫11―3滋賀

四国（8月22～24日・高知）

▼成年男子1回戦
愛媛(新居浜ク)18―14高知(高知ク)
香川(讃岐ク)44―12徳島(海上航空群)
▽同代表決定戦
香川23―18愛媛
▼少年男子2回戦
高知(選抜)17―15徳島(池田高)
愛媛(新居浜工高)16―14香川(選抜)
▽同代表決定戦
愛媛30―14高知
▼少年女子1回戦
愛媛(新居浜商高)17―4香川(丸亀高)
高知(大正高)19―2徳島(富岡東高)
▽同代表決定戦
愛媛9―7高知

中国（8月30～31日・岡山）

▼成年男子1回戦
広島(湧永薬品)44―11山口(徳山ク)
▽同準決勝
鳥取(境港市ク)33―20岡山(児島ク)
広島44―6(松江ク)
▽同代表決定戦
広島58―8鳥取
▼少年男子1回戦
広島(選抜)19―11鳥取(境港工高)
▽同準決勝
島根(選抜)20―17岡山(水島工高)
山口(選抜)25―23広島
▽同代表決定戦
山口31―12島根
▼少年女子1回戦
岡山(真備高)13―6鳥取(米子南商高)
▽同準決勝
広島(山陽女高)5―3山口(選抜)
岡山14―3島根(選抜)
▽同代表決定戦
広島15―5岡山

九州（8月30、31日・神埼）

▼成年男子1回戦
熊本(全熊本)24―21福岡(北九州ク)
沖縄(沖縄県教員)31―28長崎(佐世保ク)
宮崎(全宮崎)33―23鹿児島(鹿児島ク)
佐賀(佐賀教員)29―17大分(新日鉄大分)
▽同準決勝
沖縄27―24熊本
宮崎24―21佐賀
▽同代表決定戦
宮崎31―24沖縄
▼少年男子1回戦
福岡(小倉西高)31―22熊本(選抜)
宮崎(県立高校選抜)23―15佐賀(神埼高校選抜)
大分(選抜)27―13鹿児島(全鹿児島)
▽同準決勝
福岡28―11長崎(佐世保西高)
大分19―16宮崎
▽同代表決定戦
福岡23―20大分
▼少年女子1回戦
大分(大分東高)10―7福岡(県立高校選抜)
佐賀(選抜)10―7宮崎(小林商高)
熊本(選抜)18―7長崎(佐世保商高)
鹿児島(県少年女子)11―9沖縄(首里高)
▽同準決勝
佐賀12―12大分
熊本18―6鹿児島
▽同代表決定戦
熊本16―12佐賀

東北、東海では成年女子も

東北、東海両ブロックでは成年女子部門の競技も行われた。

◇東北・1回戦
秋田(全和洋)14―1宮城(全宮城)
青森(全青森)11―6山形(米沢女OG)
▽同準決勝
福島(ムネカタ)24―5秋田
岩手(桐花ク)28―9青森
▽同決勝
福島16―10岩手
◇東海・1回戦
三重(ジャスコ)37―3岐阜(選抜)
愛知(ブラザー工業)29―5静岡(選抜)
▽同決勝
三重20―14愛知

今年の国体ブロック予選で注目されたのは、関東、北信越、東海などが〈ブロック国体〉、いわゆるミニ国体化して、予選会を進めたことだ。

ブロック国体というのは、国体34競技のうち、県代表が即本大会へ進める競技以外のブロック代表を決める大会の別名で、数年前から日本体協が「ブロック予選は一カ所にまとめて行なうのが望ましい」として、指導を進めているもの。

先端を切ったのは東北で、すでに七年前「東北ミニ国体（正式には東北総合体育大会）」を発足させ、ハンドボールも、国体代表を決めるほか、県対抗の得点争いがからんで、新たな興味を加えている。

チーム側にとっても、予選段階

多くなった「ブロック国体」法式

からこのような形式が採られると周囲の理解度も高まり、特に成年男女の選手たちは「出場時、職場に気がねする度合が少なくなった」と歓迎している。

来年度には、九州も〈ブロック国体〉開催を決めており、いずれ全地域に、このシステムが適用されるだろう。

ハンドボール界にとって、いまのところデメリットはないようだが、関東、東海などは、旧来から国体予選がブロック選手権を兼ねており、このカラーがうすれていくのは淋しい。

特に「関東選手権」は、昭和12年、国内初のトーナメントの伝統をうけつぐ由緒があるだけに国体色の強まりで、選手権が色あせしてしまうのは、なんとも惜しい。

各地の記録

4・6Gと千葉クが初

第10回関東クラブ選手権は、7月26、27日の両日、埼玉・坂戸市民体育館に男子8、女子7チームが集まり行われた。

男子は、地元の「4・6G会」（埼玉）が、2連勝を狙う三春台ク（神奈川）と決勝を争い、後半10分12―11から連続4ゴールして大勢を決め初優勝を遂げた。

女子は混戦模様から千葉クが、決勝で初出場の日本光電ク（群馬）を延長で突きはなし、初の栄冠を握った。

1回戦敗者による2部は男女とも日川ク（山梨）が1位となった。

▽男子1回戦

笠間ク（茨城） 20（7－7 9－9：3－2 1－2）20 前橋ク（群馬）

引き分け

PTC8－7で笠間クの勝ち、

4・6G会（埼玉） 19（11－4 8－7）11 馬立ク（千葉）

三春台ク（神奈川） 21（9－5 12－5）10 日川ク（山梨）

大崎HB愛好会（東京） 17（8－8 9－5）13 ブリヂストン・ク（栃木）

▽同準決勝

4・6G会 17（9－4 8－9）13 笠間ク

三春台ク 14（7－3 7－8）11 大崎HB愛好会

▽同決勝

4・6G会 21（10－8 11－8）16 三春台ク

▽女子1回戦（3試合）

千葉ク（千葉） 21（9－2 12－2）4 保土谷ク（神奈川）

笠間ク（茨城） 16（7－2 9－3）5 4・6G会（埼玉）

日本光電ク（群馬） 12（7－6 5－6：3－1 1－0）13 日川ク（山梨）

▽同準決勝

日本光電ク 11（8－4 3－6）10 美和ク（東京）

千葉ク 19（11－3 8－2）5 笠間ク

▽同決勝

千葉ク 18（8－8 6－6：1－0 3－0）14 日本光電ク

▽男子2部1回戦

馬立ク 19―16 前橋ク

日川ク 23―14 ブリヂストン・ク

▽同決勝

日川ク 21―19 馬立ク

▽女子2部リーグ

日川ク 29―0 4・6G会

保土ケ谷ク 13―7 4・6G会

日川ク 17―5 保土ケ谷ク

栃の葉ク、大崎電気破る

第27回関東選手権男子決勝戦は8月31日横浜・平沼記念体育館で全日本教職員選手権2位の栃の葉ク（栃木）と国体関東第1代表の大崎電気（埼玉）の間で争われ前半なかばから優位に立った栃の葉クが滝口、中山らの活躍で大崎を振り切り初優勝。栃木代表の優勝も初。

栃の葉ク（栃木） 29（16－10 13－14）24 大崎電気（埼玉）

前原、カップル優勝飾る

▼第15回沖縄県高校選手権（9月・奥武山）

▽男子準々決勝

浦添 25―20 興南

沖縄工 31―20 コザ

糸満 23―15 読谷

前原 43―9 南風原

▽同準決勝

沖縄工 26―19 浦添

前原 26―18 糸満

▽同決勝

前原 19（12－10 7－8）18 沖縄工

▽女子準々決勝

首里 26―3 知念

豊見城 12―7 読谷

浦添 18―4 糸満

前原 15―6 浦

▽同準決勝

首里 10―4 豊見城

前原 17―5 浦添

▽同決勝

前原 12（7－2 5－6）8 首里

氷見勢、男子で強味

▼第33回富山県民体育大会（8月・高岡）

▽高校男子準決勝

氷見 32―9 高岡商

富山南 15―13 高岡日大

▽同決勝

氷見 32（17－6 15－2）8 富山南

▽同女子準決勝

有磯 23―4 富山女

小杉 12―7 高岡商

▽同決勝

有磯 14（6－1 8－4）5 小杉

▽中学男子決勝

氷見西部 19―12 新庄

▽同女子決勝

般若 3―1 小杉

高校女子で緑が丘18年ぶり

▼第32回福島県総合体育大会（8月、いわき市）

▽成年男子準決勝

SGク 27―19 福島教員

全郡山 29―12 自衛隊福島

▽同決勝

SGク 26（11－9 15－8）17 全郡山

▽成長女子県選手権リーグ

いわきク 22―11 小野ク

いわきク 22―4 東北歯大

小野ク 19―10 東北歯大

【順位】①いわきク②小野ク③東北歯大

▽高校男子準々決勝

聖光学院 32―10 郡山北工

南会津 15―10 好間

長沼 14―11 学法石川

安積 14―12 郡山

▽同準決勝

聖光学院 32―18 南会津

長沼 22―14 安積

▽同決勝

聖光学院 22（12－6 10－7）13 長沼

▽高校女子準々決勝

石川 10―9 県福島工

長沼 24―3 日本女工

安積女 12―6 安積商

緑が丘 13―6 小野

▽同準決勝

長沼 10―7 石川

緑が丘 9―2 安積女

▽同決勝

緑が丘 9（4－3 5－5）8 長沼

女子で横浜銀行が優勝

▼横浜市協会長杯争奪トーナメント（9月、横浜）

▽男子準決勝

日本発条 21―13 三春台ク

飯山ク 20―15 横浜市消防局

▽同決勝

日本発条 18（8－3 10－13）16 飯山ク

▽女子決勝

横浜銀行 15（8－1 7－4）5 立野ク

まえへ9曲　うしろへ9曲
デジタル選曲

マイクロコンピューター搭載。どこまで進化するのかラジオカセット。

メタル&フェザータッチ



マイクロコンピューター
ステレオ パディスコ 8800

TRK-8800 ¥84,800

●高級デッキなみの操作感覚フェザータッチ ●2モーターシステムが可能にした高精度回転ワウ・フラッター0.06%(W.R.M.S) ●メタルテープの性能をフルに引き出すメタル対応ヘッド搭載 ●曲の頭出し思いのまま、繰り返し聞けるリピートデジタル選曲機構 ●テープを初めから終わりまで繰り返し自動演奏するオートリワインドプレイ機構

●2ウェイ・4スピーカーシステム(16cmウーハー×2＋5cmツイーター×2) ●実用最大出力10W(5W+5W) EIAJ/DC ●大きさ 幅55.6×高さ31.8×奥行17.3(cm) ●重さ 8kg(乾電池含む)

★選曲のために、曲と曲との間に3秒間以上の無信号部分が必要です。



くらしを豊かに…
「日立新技術シリーズ」

日立の新技術・新アイデアから生まれた代表商品です。このエレクトロニクスの基本技術は、日立カセットレコーダーに共通して生かされています。



品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI RADIO CASSETTE RECORDER

HITACHI

上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い 日立のクレジット

●日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。
★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一九〇号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和五五年九月二十五日印刷
昭和五五年十月一日発行



一歩速く。

**鋭いダッシュ、確かなストップが
ゲーム展開を有利にする。**



アシックスタイガーのハンドボールシューズはスタートダッシュが鋭く速くでき、ストップが確実にできるシューズマシンです。だから どのような状況のプレーにも「一歩速く」スムースに動くことができます。従ってディフェンスを抜くことも容易でノーマークの状況をつくり出すことができます。また「攻」から「守」への転換もスムースで速くできます。
勝つために この一足を ぜひ。

asics TIGER
Handball Shoes
ハンドボールBK

ハンドボールBK(THH703) ■甲被は牛皮カラーベロア。 ■底はノンスリップ意匠底。 ■タコの吸盤の原理を応用した特殊ソール。
■レッド×ホワイト、ブルー×ホワイト ■サイズ 22.5～28.0cm

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)